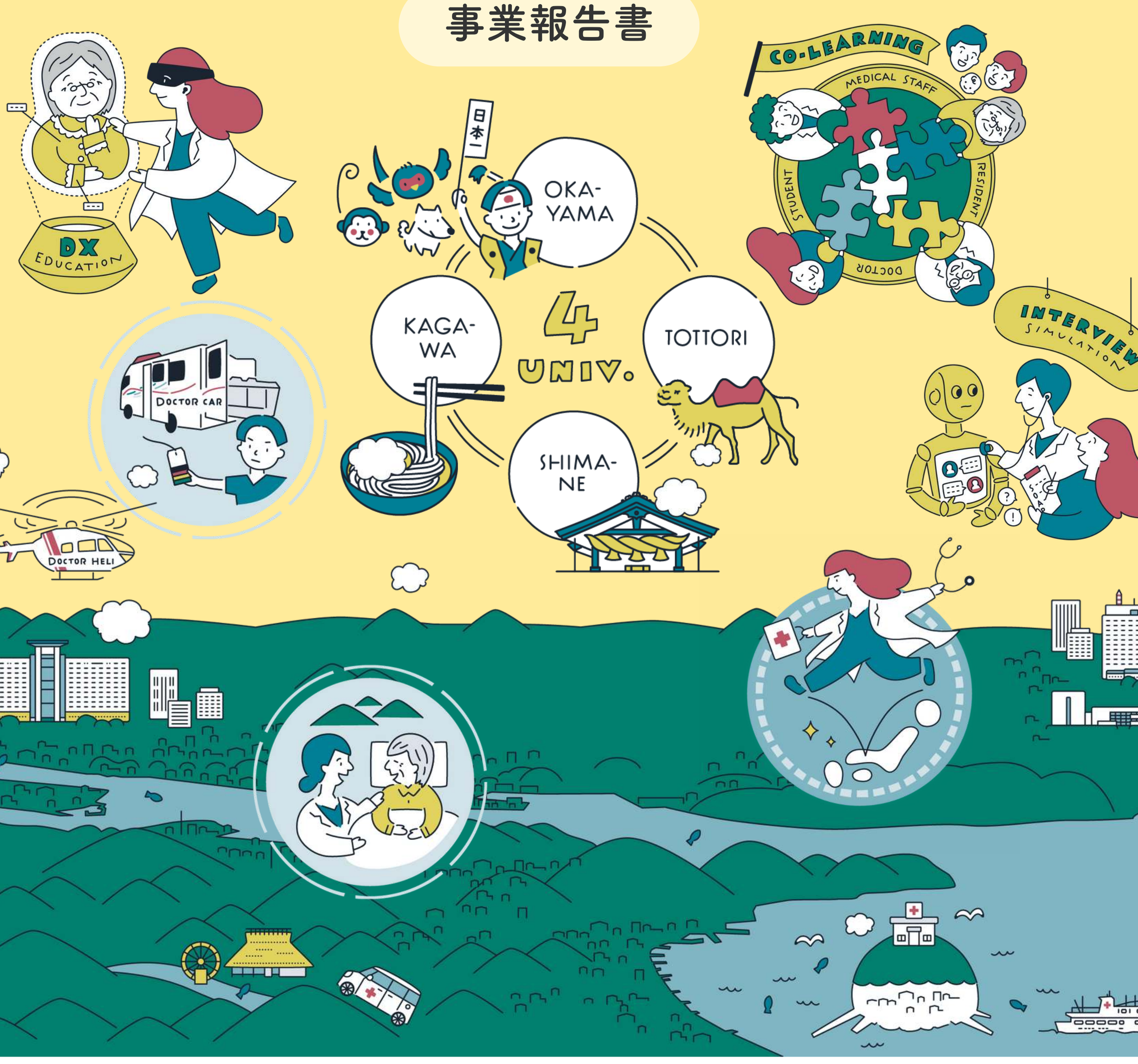
令和6年度

多様な山里海を巡り個別最適に学ぶ
「多地域共創型」医学教育拠点の構築
「文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
（山里海医学共育プロジェクト）

事業報告書



［文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業］
山里海医学共育プロジェクト

OKAYAMA UNIVERSITY
島根大学 SHIMANE UNIVERSITY
香川大学
鳥取大学 Tottori University

［文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業］
山里海医学共育プロジェクト

目次
CONTENTS

1　事業責任者挨拶 …… 1
岡山大学医学部長　豊岡　伸一 …… 2
2　事業概要 …… 3
事業概要 …… 4
プログラム …… 5
運営体制 …… 8
3　専任教員紹介 …… 12
岡山大学　香田　将英 …… 13
島根大学　大和田　芽衣子 …… 13
香川大学　駒澤　伸泰 …… 13
鳥取大学　中野　俊也 …… 13
4　事業全体に関する事業報告 …… 14
事業全体の経過報告（令和6年度） …… 15
シンポジウム・全国フォーラム等 …… 17
高校生向け地域枠・地域医療合同説明会 …… 20
４大学医学部による臨床実習教育の協力に関する協定を締結 …… 21
5　大学ごとの事業報告 …… 22
岡山大学 …… 23
地域医療 Early Exposure プログラム …… 23
地域医療体験実習（地域医療フィールドリサーチプログラム） …… 24
公衆衛生学マスター養成プログラム …… 26
地域医療リーダー養成教育プログラム …… 27
VRやMRを活用した教育の開発 …… 29
生成AIを活用した教育の実施 …… 30
ポッドキャストの開設：「Co-learning入門」公開 …… 31
島根大学 …… 32
多地域共創型医療実習／総合診療学マスター養成プログラム …… 32
夏季・春季地域医療実習 …… 32
フレキシブル地域医療実習 …… 33
VR機器を活用した取り組みについて …… 33
人員の強化 …… 33
香川大学 …… 35
地域医療フィールドリサーチプログラム …… 35
地域医療フィールドリサーチプログラムの意義 …… 36
地域枠学生を対象としたキャリアデザインシミュレーション …… 37
鳥取大学 …… 38
救急・災害医学/感染症学マスター養成プログラム …… 38
多地域共創型医療実習プログラム …… 38
6　教育プログラム・コースの状況 …… 39
7　外部評価委員一覧および評価 …… 40
外部評価委員一覧 …… 41
令和６年度の評価 …… 41
8　その他 …… 43

山里海医学共育プロジェクト
事業責任者挨拶

1 事業責任者挨拶

岡山大学医学部長　豊岡　伸一

医療を取り巻く環境は、新しい局面を迎えています。ポストコロナ時代を経て、地域医療の課題はより複雑化し、求められる医療人材の姿も大きく変化しました。今、私たちに必要なのは、従来の枠を超えた発想と、大学の垣根を越えた連携です。

岡山大学は、島根大学、香川大学、鳥取大学とともに「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に取り組んでいます。本事業では、4大学が共同で築き上げる「多地域共創型」医学教育モデルを通じて、新しい時代に即した医療人の育成を進めています。各大学の学生が、多様な地域の実情を学びながら、実践的な経験を積み、広い視野と確かな技術を身につける。これこそが、未来の医療を支える人材を生み出す鍵になると考えます。

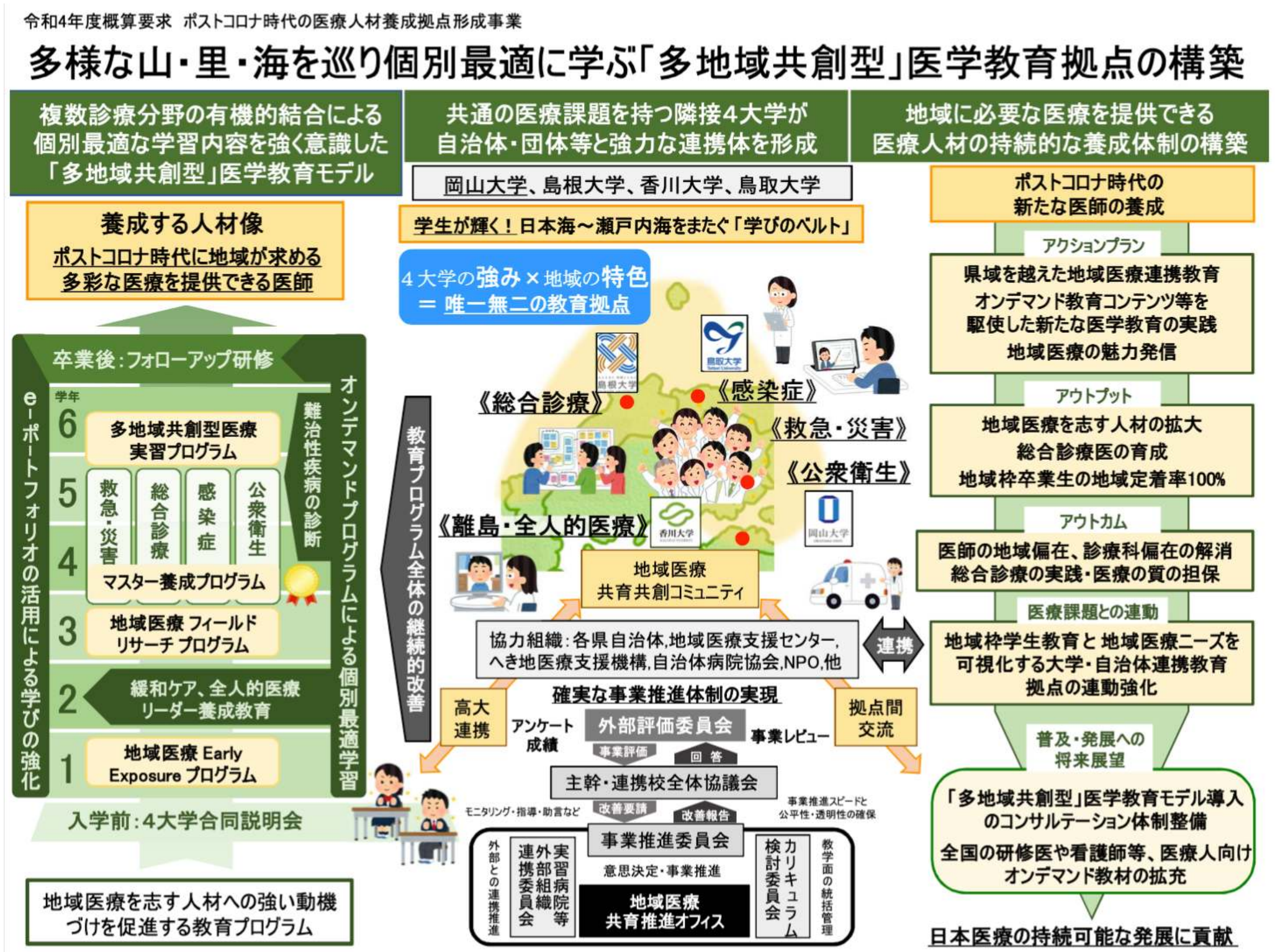
私たちは、単なる知識の伝達ではなく、「地域とともに学び、地域とともに成長する」教育を目指しています。岡山大学医学部が培ってきた150年以上の経験を生かしながら、島根大学、香川大学、鳥取大学との連携を深め、新たな医療教育の形を創造していきます。

さらに、本事業は大学だけの取り組みではありません。医療機関、自治体、産業界と手を取り合い、社会全体で医療人材の育成に取り組むことが不可欠です。変容する時代だからこそ、実践力のある人材を地域に送り出し、医療現場の未来を支えていくことが、私たちの使命だと考えています。

今後とも、4大学の協力を基盤に新しい医療教育の形を模索し、地域とともに歩んでまいります。引き続き、本事業へのご支援をお願い申し上げます。

山里海医学共育プロジェクト
事業概要

事業概要



岡山大学、島根大学、鳥取大学、香川大学の４大学は、令和４年から７年間、文部科学省補助事業ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に選定されました。4大学がこれまでに培った医学教育の豊かな個性と強みを掛け合わせ、中国四国地域最大級となる唯一無二の地域医療人養成拠点を構築することを目的としています。

「地域医療が求める人材を養成」

学生が多彩な地域ならではの医療課題を個別最適に学習・体験することで、地域が求める優れた医療を提供できる医師を広く養成します。

「４大学の多地域共創型」

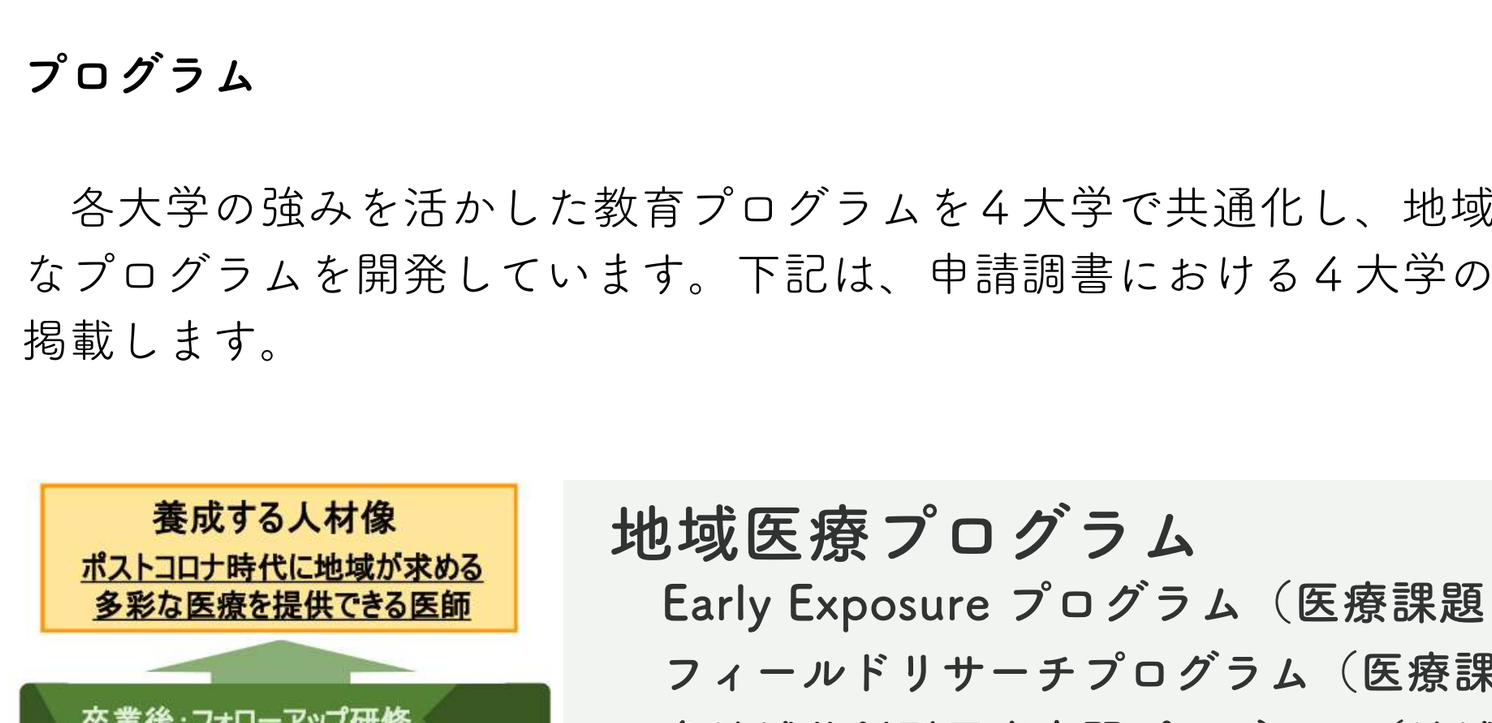
各大学が豊かな個性と強みを掛け合わせ、新たな「多地域共創型」医学教育モデルを構築・ 推進します。

「持続可能な医療の発展に貢献」

多くの地域医療課題を共有する４大学が相乗的に連携協働することで、地域医療が求める優れた先駆的医師を養成し、我が国の持続可能な医療の発展に貢献します。

４大学の強み

岡山大学：公衆衛生、先進医療（臓器移植）、初期診断、緩和ケア
島根大学：総合診療
香川大学：離島医療、遠隔医療
鳥取大学：感染症医療、災害医療



プログラム

各大学の強みを活かした教育プログラムを４大学で共通化し、地域のニーズを踏まえた新たなプログラムを開発しています。下記は、申請調書における４大学の連携プログラム構想案を掲載します。

地域医療プログラム

中心となる大学

- Early Exposure プログラム（医療課題を認識） — 岡山大学
- フィールドリサーチプログラム（医療課題を考察） — 香川大学
- 多地域共創型医療実習プログラム（地域医療を実践） — 島根大学

マスター養成プログラム

- 救急・災害医療学 — 鳥取大学
- 総合診療学 — 島根大学
- 感染症学 — 鳥取大学
- 公衆衛生学 — 岡山大学

オンデマンド教育プログラム

- 緩和ケア／全人的医療教育プログラム — 香川大学
- リーダー養成教育プログラム — 岡山大学

eポートフォリオ活用による学びの強化
高大連携と卒後フォローアッププログラム

地域医療プログラム

地域医療 Early Exposure プログラム

医学的な知識は僅かしかない時期ではあるが、実際の現場へ出てみることで、将来のゴールのひとつである「本当に必要とされる医療」の姿を知ることが出来る。さらに、患者も含めた地域の方々と交流し、医療的な問題のみならず「人間が生きることの本質」についても深く考える機会とする。

地域医療フィールドリサーチプログラム

地域医療体験実習、地域診断実習を通して、地域医療課題を抽出し、解決方法について科学的な視点から考察を行う。学生は４県での実習が可能で、より多彩な地域医療に触れる機会を持ち、各地域により課題が異なっていること、その解決方法も異なってくることを考察する。また、その成果を学生間で共有することにより、自身のみでは経験できなかった地域医療の魅力や課題を共感する。課題解決に向けて自分たちは何ができるのかを考える機会とする。

多地域共創型医療実習プログラム

これまでの知識と技能、態度をもって、地域医療の現場に入り、医療・介護・保健など医療におけるサービス・システム等の多様性や課題を理解し、科学的な視点を踏まえて住民一人一人や地域全体のウェルビーイング向上への貢献を実践する機会とする。地域医療の魅力と課題について改めて考え、中山間地や離島など多彩な地域で活躍するロールモデルとの出会いを通して、将来の地域医療人としての目標を明確にする。

マスター養成プログラム

救急医学・災害医療学マスター養成プログラム

病院内での診療だけでなく、救急車やドクターカーに同乗することで、病院前診療にも積極的に参加し、診療のみならず、現場でのコミュニケーションを含めた態度教育も合わせて行う。また、重症、重篤な患者への診療も経験することで、前方もしくは後方で連携する地域医療に求められる医療を理解し、考える機会を持つ。また、突発的に発生する多発外傷や災害医療なども、ホロレンズやバーチャルリアリティ（VR）を使用した教育、EMARGOトレーニングによるシミュレーションにより、多くの学生に対し同じ機会を提供する。

総合診療学マスター養成プログラム

初診外来で医療面接、身体診察により得た情報を基に、臨床推論を行い、指導医とのディスカッションを通して臨床推論の型を学び、診察の実践を繰り返し行う。また、その中で、難治性疾患の初期診断や診断困難症例についても多く経験し、診療経験の蓄積を行うとともに、地域医療で求められる「専門医へ適切にコンサルトできるスキル」も身につける。また、日常優遇する疾患や障害の治療・予防、保健・福祉など幅広い問題について適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供でき、社会のニーズに対応出来る総合診療医の役割を知り、「患者中心の医療」を支える理論をエキスパートから体系的に学ぶ。

感染症学マスター養成プログラム

「将来のすべての地域医療人の感染症リテラシーを高める」ことを目標とし、従来からの臨床感染症学の教育内容に加えて、すべての分野の医師が新興感染症流行下でも通常医療を遂行するために必要となる知識を獲得する。安全な感染症教育のため、感染症患者診察現場や、防護具を着用しての医療実施現場をVR上で再現して教育を行うなど、VR、シミュレーション、リモート教育を積極的に取り入れる。「将来のすべての地域医療人にとっての必須知識」であることから、卒後も継続して学べるプログラムとする。感染症に対応できる地域医療を担う医師に加えて、感染症に強靭な地域と本邦の医療体制を担う医療人を養成する。

公衆衛生学マスター養成プログラム

地域保健および産業保健の現場などに関する講義・実習を行う。実習では、単なる見学だけでなく、地域保健、産業保健における課題の解決法をより実践的に、かつ、より最適な解決方法を考える。テーマごとにコンペティションを実施し、興味を持って実習に臨み、大学を超えて学生交流を行うとともに切磋琢磨できる環境を整える。また、新型コロナウイルスで問題となった、 地域における感染対策（クラスター対策や病院間連携）を学ぶ。

オンデマンドプログラム

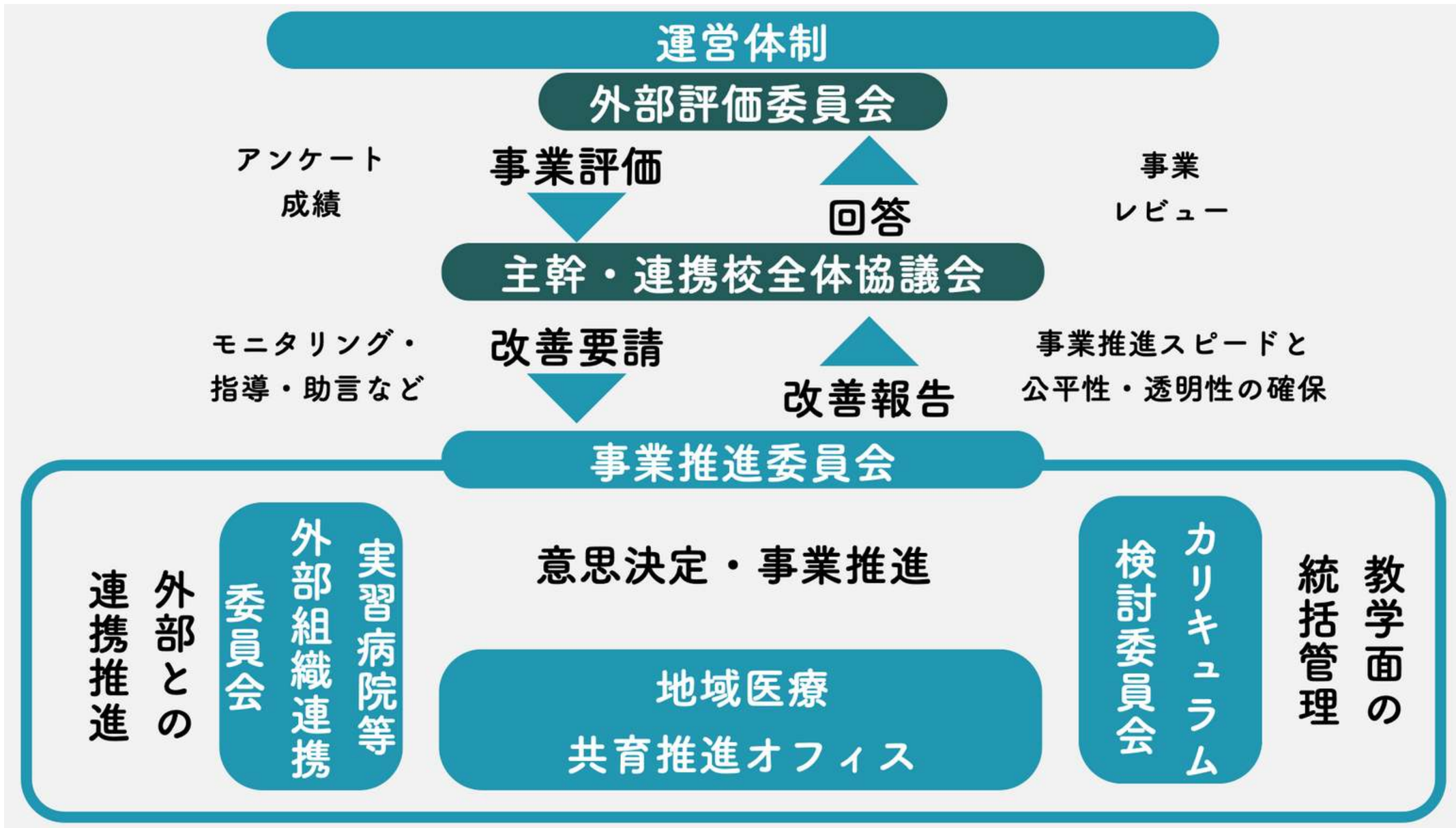
地域医療全人的医療教育プログラム

地域医療ではより深い全人的医療が求められる。「緩和ケア研修」、「ACP研修」、「ユマニチュード研修」、「ナラティブ・ベイスト・メディスン研修」により患者医師関係の構築について多面的なアプローチで全人的医療について理解を深める。

地域医療リーダー養成教育プログラム

地域医療で求められる素養となる、「リーダーシップ」、「フォロワーシップ」、「非認知能力」の理論を理解した上で、事例をとおしてより具体的に理解を深める。

運営体制



４大学を中心に各県自治体などの協力組織と事業を実施しています。事業の推進は主幹校の医学部長を委員長とする事業推進委員会が中心となり、その中にカリキュラム検討委員会、実習病院等外部組織連携委員会、地域医療共育推進オフィスを設置しています。そして事業推進委員会とは別に主幹校・連携校の研究科長・病院長等の代表者クラスで構成される主幹・連携 全体協議会を設置し、モニタリング・指導・助言、事業推進スピードと公平性・透明性の確保が担保される事業実施体制としています。自己評価体制として受講学生・臨床実習病院等にア ンケートを行い主幹・連携校全体協議会に諮り評価を実施しています。大学関係者、医療関係者からなる外部評価委員会を設け、アンケート結果を含む事業全般に対してレビュー・評価をうけています。

委員名簿　（2025年3月時点）

事業推進委員会

所属・職名	氏　名
岡山大学・医学部長	豊岡　伸一
島根大学・医学部長	石原　俊治
香川大学・医学部長	西山　成
鳥取大学・医学部長	景山　誠二
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療人材育成講座教授	小川　弘子
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス特任准教授	香田　将英
島根大学・医学部地域医療支援学講座教授	佐野　千晶
島根大学・医学部総合医療学講座教授	牧石　徹也
島根大学・病院医学教育センター／地域医療共育推進オフィス（兼任）助教	大和田　芽衣子
香川大学・医学教育学教授	横平　政直
香川大学・医学教育学准教授	坂東　修二
香川大学・地域医療共育推進オフィス特命教授	駒澤　伸泰
香川大学・地域医療総合医学講座特任教授	谷　丈二
鳥取大学医学部地域医療共育推進室　特命教授	中野　俊也
鳥取大学医学部地域医療学講座准教授	孫　大輔
鳥取大学医学部附属病院・高度救命救急センター教授	上田　敬博
鳥取大学医学部附属病院・臨床感染症学講座教授	千酌　浩樹
岡山大学病院・副病院長（教育担当）	伊野　英男

カリキュラム検討委員会

所属・職名	氏　名
岡山大学・医学科教務委員長	細野　祥之
島根大学・医学部地域医療教育学講座教授	長尾　大志
香川大学・医学教育学教授	横平　政直
鳥取大学医学部副学部長（教務担当）	中曽　一裕
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療人材育成講座教授	小川　弘子
島根大学・医学部地域医療支援学講座教授	佐野　千晶
香川大学・医学教育学准教授	坂東　修二
鳥取大学医学部地域医療共育推進室特命教授	中野　俊也
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス特任准教授	香田　将英
香川大学・地域医療共育推進オフィス特命教授	駒澤　伸泰
島根大学・病院医学教育センター／地域医療共育推進オフィス（兼任）助教	大和田　芽衣子

実習病院等外部組織連携委員会

所属・職名	氏　名
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療人材育成講座教授	小川　弘子
島根大学・医学部地域医療支援学講座教授	佐野　千晶
香川大学医学部附属病院地域医療教育支援センター教授	星川　広史
鳥取大学医学部地域医療共育推進室　特命教授	中野　俊也
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス特任准教授	香田　将英
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 岡山県地域医療支援センター岡山大学支部助教	野島　剛
香川大学・地域医療共育推進オフィス特命教授	駒澤　伸泰

主幹・連携校全体協議会

所属・職名	氏　名
岡山大学病院 病院長	前田　嘉信
島根大学医学部附属病院病院長	椎名　浩昭
香川大学医学系研究科長	西山　成
鳥取大学医学部長鳥取大学大学院医学系研究科長	景山　誠二
岡山大学・医学部長	豊岡　伸一
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療人材育成講座教授	小川　弘子
岡山大学・学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス特任准教授	香田　将英

外部評価委員会

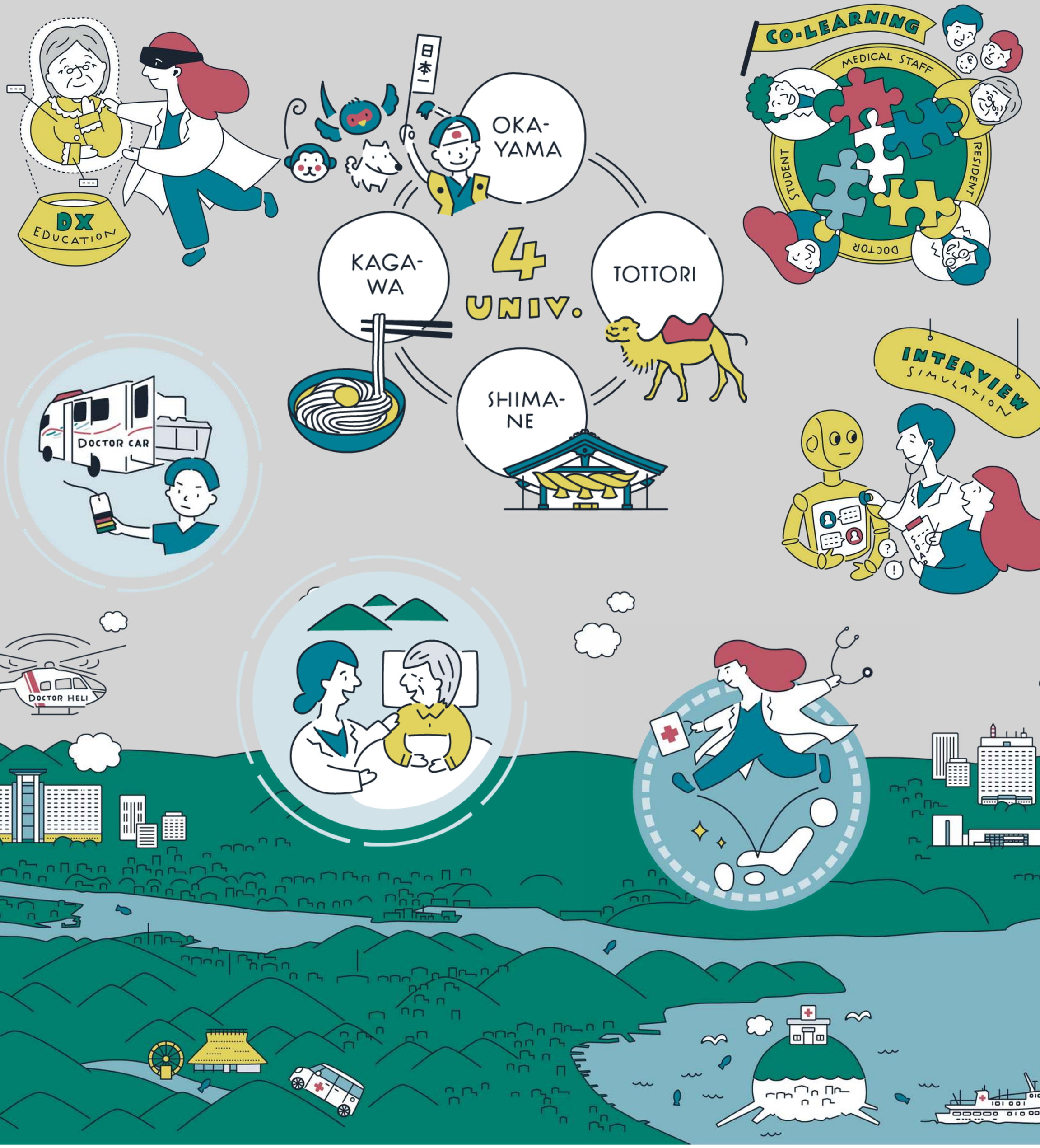
所属・職名	職　名	氏　名
聖マリアンナ医科大学救急医学講座	教授	藤谷　茂樹
国際医療福祉大学大学院　医学部医学教育統括センター・ 感染症学	センター長・ 教授	矢野　晴美
千葉大学医学部医学教育研究室	特任教授	清水　郁夫
社会医療法人清風会岡山家庭医療センター	所長	松下　明
自治医科大学・医学教育センター医療人キャリア教育開発部門	特命教授	菅野　武

事務担当者

所属・職名	氏　名
岡山大学・大学院医歯薬総合研究科等 地域医療共育推進オフィス事務担当	田渕　真理子
島根大学・医学部学務課教育改革・教務担当/ 地域医療共育推進オフィス（兼任）	半井　弘樹
香川大学・医学部（医学部教育センター内） 地域医療共育推進オフィス	野田　由紀
鳥取大学医学部 地域医療共育推進室	近藤　なつえ
鳥取大学・米子地区 事務部学務課専門職員	武尾　重之

・・・・・・3・・・・・・

山里海医学共育プロジェクト
専任教員紹介



岡山大学　香田　将英

令和6年度の成果として、4大学間で実習協力に関する協定書を締結しました。島根大学の学生が岡山県の哲西町診療所で、岡山大学の学生が島根県の隠岐島前病院で実習を行うなど、垣根を超えた実習が始まっています。また、生成AIを活用した医療面接シミュレーションや認知症体験VR教育など、先進的な教育コンテンツの開発も進めています。岡山大学では1年生の約半数が地域医療実習を行い、低学年のうちから地域医療への理解を深める機会を提供しています。学生が自らの心に志の火を灯し、将来それぞれの地域で光り輝けるように、山陰から山陽、瀬戸内海という「学びのベルト」を形成してまいります。今後ともご支援賜りますようお願いいたします。

島根大学　大和田　芽衣子

令和６年２月から本事業の専任教員として島根大学に着任いたしました大和田です。本事業も３年目となり、臨床実習教育に関する協定を締結し、大学を超えた多様な臨床実習や様々なプログラムが動いております。島根大学は総合診療に力を入れており、地域で活躍される医療者や地域の皆様の協力を得て、学生の皆さんに地域と総合診療の魅力を体験できるような実習の場を提供しております。本年度は、本学以外の６名の学生が臨床実習に参加しています。また、本学の学生も岡山、鳥取で救急医療や地域医療を経験する機会を得て、島根県とは違う環境のもと有意義な実習を経験しました。今後とも、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

香川大学　駒澤　伸泰

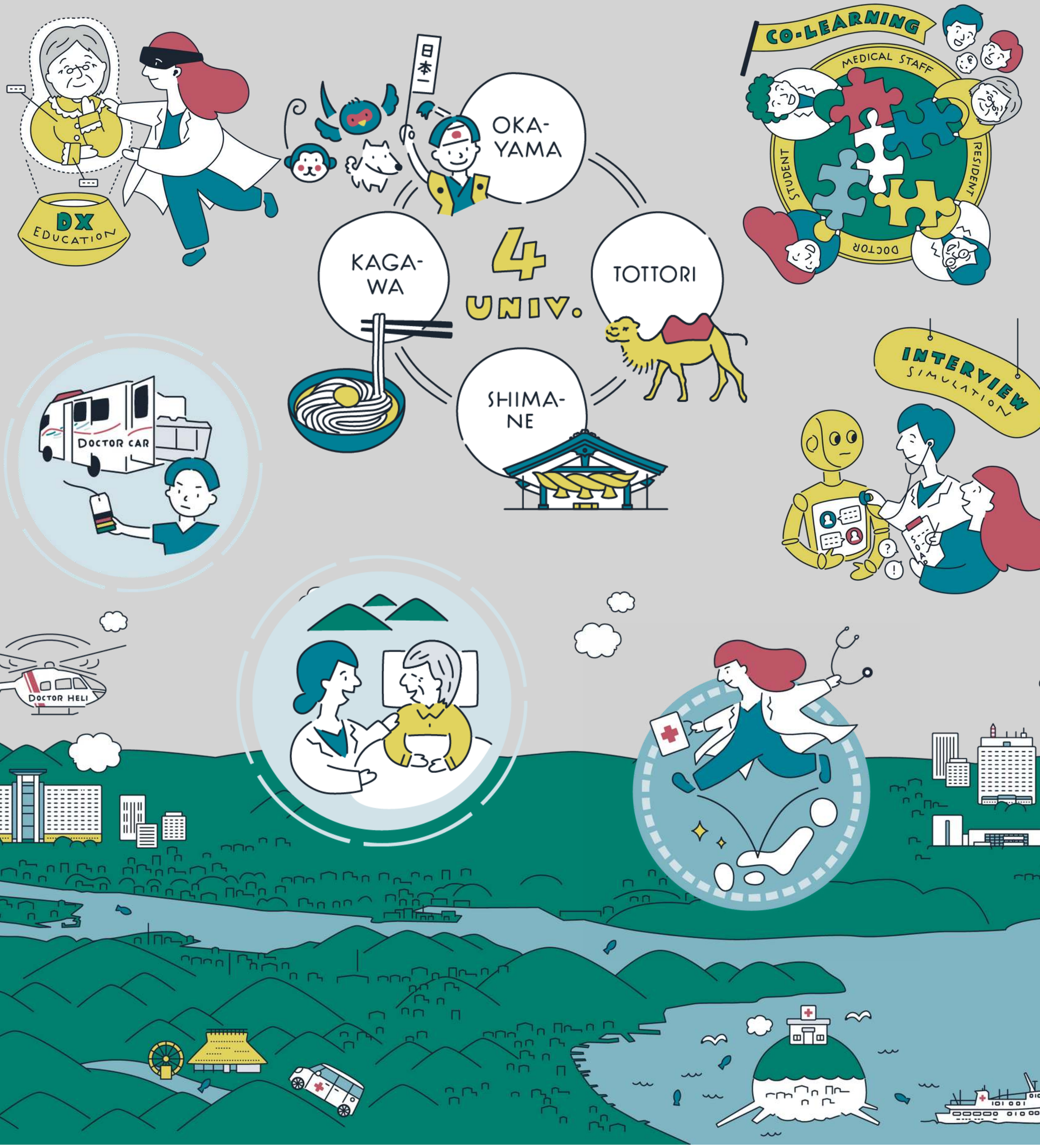
2023年4月から香川大学医学部地域医療共育推進オフィスに着任いたしました駒澤伸泰と申します。臨床背景は、麻酔科学・手術室運営と緩和医療であり、これまで卒前卒後臨床教育、多職種連携教育、学修支援、シミュレーション教育を専攻してまいりました。データサイエンス・AIの発展により現在、我々が突入しているSociety 5.0における地域医療教育の推進に少しでもお役に立てれば幸いです。地域医療教育においても「学修の主体は医学生」であることには変わりなく、彼らのアクティブラーニングを支援できるような教育体制を整えていきたいと考えています。激変する未来の地域医療における「キャリアデザイン」を支援する姿勢が不可欠と考えます。皆様の温かいご指導、ご支援をお願い申し上げます。

鳥取大学　中野　俊也

鳥取大学医学部地域医療共育推進室着任から2年が経過しました。鳥取大学の強みや山陰の地域特性に関する認識を深め、本学の医学教育における山里海医学共育プロジェクトの位置づけを明確にしつつ学内のカリキュラム改革・運営に携わりながら、岡山、島根、香川の3大学の皆様との緊密な連携に努めてまいりました。本学が担当する救急医学・災害医学／感染症学マスター養成プログラムのパイロットプログラムとして令和5年と令和6年に「とりだい夏プログラム」を実施し、4大学の多くの学生さんに参加していただきました。プログラムに参加された学生さんからは、実践的学びによるモチベーションの向上、地域医療に関する認識の変化、多職種連携に関する理解の深まり、今後のキャリアに関する意識の向上などに関する多くの感想や意見を頂きました。今後も4大学の絆を更に深め、多彩な地域で多彩なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことで輝きを増し、地域医療のリーダーとなる多くの優れた医師を育成できる教育拠点の構築を目指して精進してまいりたいと考えております。

・・・・・・4・・・・・・

山里海医学共育プロジェクト
事業全体に関する事業報告



事業全体の経過報告

4月	令和6年度第1回オフィス合同定例会を開催
5月	第5回事業推進委員会を開催
6月	令和６年度第２回オフィス合同定例会を開催
7月	高大連携事業（芳泉高校訪問）を実施
	第11回 地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップ（共催）
	ポストコロナ事業における拠点間交流（都農町国民健康保険病院訪問）
8月	2024とりだい夏プログラムを開催
	４大学による高校生向け地域枠・地域医療合同説明会を開催
	令和６年度第３回オフィス合同定例会を開催
	第6回事業推進委員会を開催
	2024年度地域枠学生・自治医科大学生合同セミナーin 高梁を開催（協力）
9月	「４大学医学部による臨床実習教育の協力に関する協定」を締結
	岡山大学で医療系学部合同による多職種連携授業を実施（共催）
10月	「医学英語ポッドキャスト」を開設
	医学英語ポッドキャスト「Co-learning入門」公開
	医学英語ポッドキャスト「プライマリ・ケアのACCCAに関する解説シリーズ」公開
	医学英語ポッドキャスト「地域医療共育における5microskills解説シリーズ」公開
11月	地域医療Early Exposureプログラムにおける地域医療シンポジウムを開催（共催） 第10回地域医療を教えるための指導医講習会を開催（共催）
	医学英語ポッドキャスト「地域医療共育のRIMEモデル解説シリーズ」公開
	第4回カリキュラム検討委員会を開催
	第３回実習病院等外部組織連携委員会を開催
	島根大学医学部医学科４年生を対象に臨床実習入門特別プログラム「臨床的疑問を解決するための 生成AI 活用」を開催
	医学英語ポッドキャスト「患者中心の医療の方法シリーズ」公開
	「指導者養成講習会地域医療共育のためのシミュレーション研修（Simulation program for Co-learning Community healthcare Using Generative AI: CoCoSimAI）」を開催

12月	第１回令和6年度地域枠学生・卒業生勉強会（共催）
	岡山大学教育学部附属中学校の生徒が医学部を訪問し、連携事業を実施（共催）
	成果報告シンポジウム「多地域共創型医学教育シンポジウム in 香川」を開催
	公衆衛生学マスター養成プログラム「瀬戸内市フィールドワーク」を実施
1月	第3回全国フォーラム（担当校：長崎大学、熊本大学、鹿児島大学）に出席
	第２回令和6年度地域枠学生・卒業生勉強会（共催）
2月	第３回外部評価委員会を開催
	第３回・第４回令和6年度地域枠学生・卒業生勉強会（共催）
	ポストコロナGP意見交換会、つくば総診向けレクチャー「生成AIと教育について」講演を行う（拠点間連携）
3月	第３回主幹・連携校全体協議会を開催

令和6年12月13日 「令和6年度多地域共創型医学教育シンポジウム in 香川」を開催

内　　容

文部科学省 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」
2024年度多地域共創型医学教育シンポジウム in香川
「地域医療を話し合おう。地域医療でつながろう。地域医療の学びを深めよう。」

日　時　2024年12月13日（金）（13:00～17:00）【ハイブリッド開催】

①開会の辞
香川大学　医学部地域医療教育支援センター長　星川　広史

②特別講演「あなたはどんな医師になりますか！？」
演者：長崎大学病院医療教育開発センター教授 松島　加代子
座長：香川大学医学部医学教育学講座教授 横平　政直

③学生による地域医療フィールドワーク報告
「臨床実習・離島医療・コミュニケーション」
演者：香川大学医学部４年生　３名
座長：香川大学医学部地域医療共育推進オフィス
特命教授　駒澤　伸泰

④開催校挨拶
香川大学　医学部長　西山　成

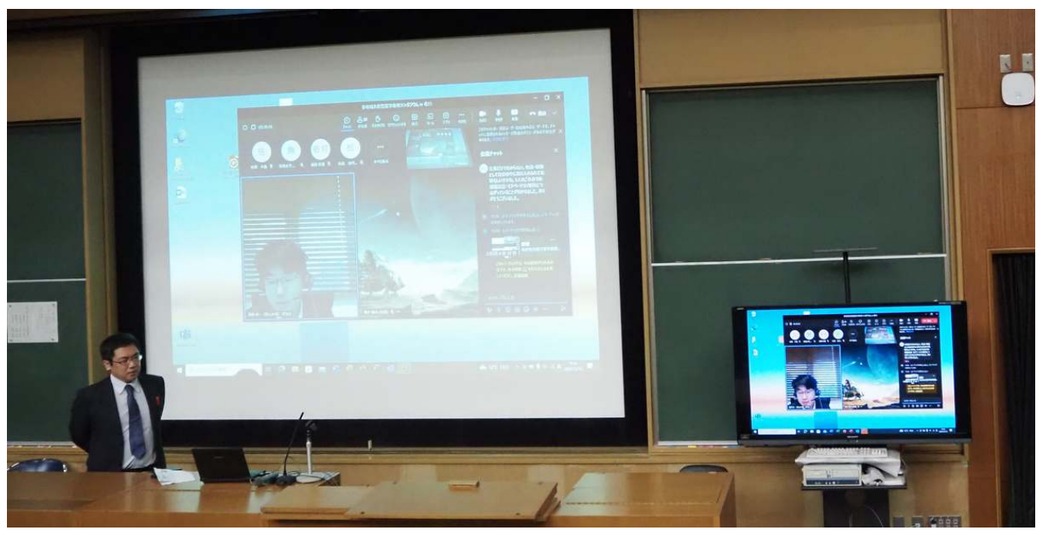
⑤事業成果報告
鳥取大学地域医療共育推進室特命教授　中野　俊也
岡山大学地域医療共育推進オフィス特任准教授　香田　将英
島根大学地域医療支援学講座教授　佐野　千晶
香川大学地域医療共育推進オフィス特命教授　駒澤　伸泰

⑥閉会の辞
岡山大学　医学部長　豊岡　伸一

第一部では、香川大学医学部医学教育学講座横平政直教授を座長として、長崎大学病院医療教育開発センター松島加代子教授による特別講演を行いました。
「あなたはどんな医師になりますか！？」と題して、地域医療の魅力やワークライフバランスを含めたキャリアデザインの重要性について双方向性の講義がありました。

その後、香川大学医学部医学科4年生の3名から「地域医療フィールドリサーチプログラム」の医学生実践報告がありました。これは未来の地域医療を担う医学生がフィールドワークを通じて、地域医療教育プログラムを創るという試みです。「地域医療における診療参加型臨床実習」「新たな離島医療教育」「遠隔医療を含む地域医療でのコミュニケーション」に関して、学生ならではの視点でプレゼンテーションを行いました。

第二部では、香川大学医学部長西山成教授による開催校挨拶の後、本事業の事業成果報告として、鳥取大学地域医療共育推進室 中野俊也 特命教授、岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス 香田将英 特任准教授、島根大学地域医療支援学講座 佐野千晶 教授、香川大学地域医療共育推進オフィス 駒澤伸泰 特命教授より、各大学の事業進捗の報告がありました。



令和４年度に採択された本事業では、主幹・連携の４大学（岡山、島根、香川、鳥取）の医学部が、それぞれの強みと特色を掛け合わせ、中国四国地域最大級となる唯一無二の地域医療人材養成拠点を構築することを目標として掲げています。

シンポジウムには、医学部生、大学医学部関係者、地域医療に携わる医師の他、近隣の自治体などの関係機関、本事業に採択された他拠点関係者など118名（対面95名【内、教職員6名、香川大学医学生 89名】、オンライン参加 23名）が参加し、活発な意見交換も行われました。最後に、本事業の実施責任者である岡山大学 豊岡伸一 医学部長の閉会の辞により約３時間半に及ぶシンポジウムは、盛況のうちに幕を閉じました。

令和７年１月１０日　全国フォーラム出席

2025年1月10日(金)にポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業第3回全国フォーラムが一橋講堂で開催されました。採択された11の主幹校、15の連携校を始めとした関係者に加え、事業３年目となる今回は、学生も参加するフォーラムとなりました。

プログラム受講学生からの発表や、今年度の事業報告、各拠点間での活動実績報告を行い、意義深い議論が展開されました。

全国フォーラム終了後には、主幹・連携大学で集まり意見交換も行い、実りある一日となりました。

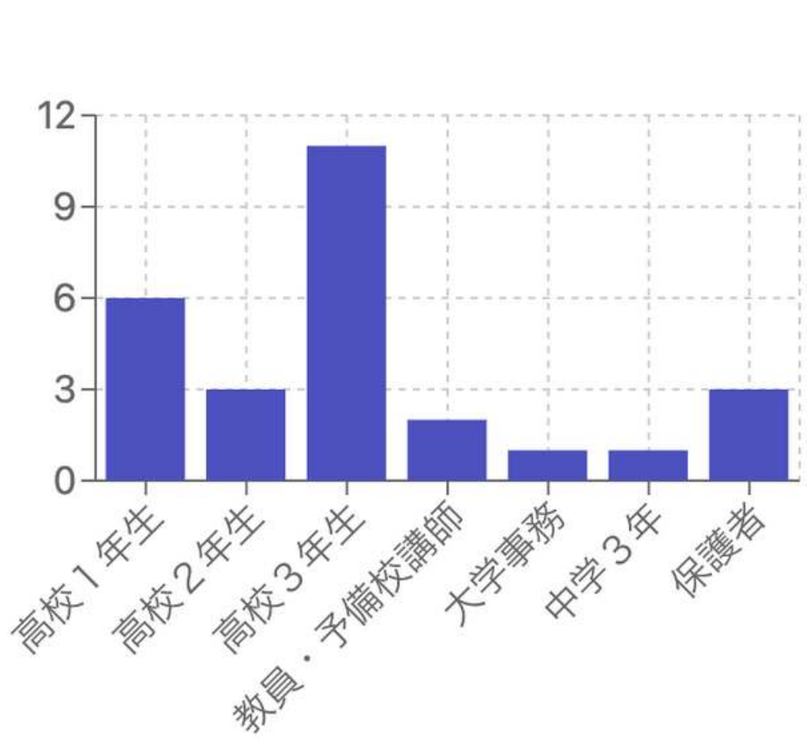
令和６年８月７日　高校生向け地域枠・地域医療合同説明会開催

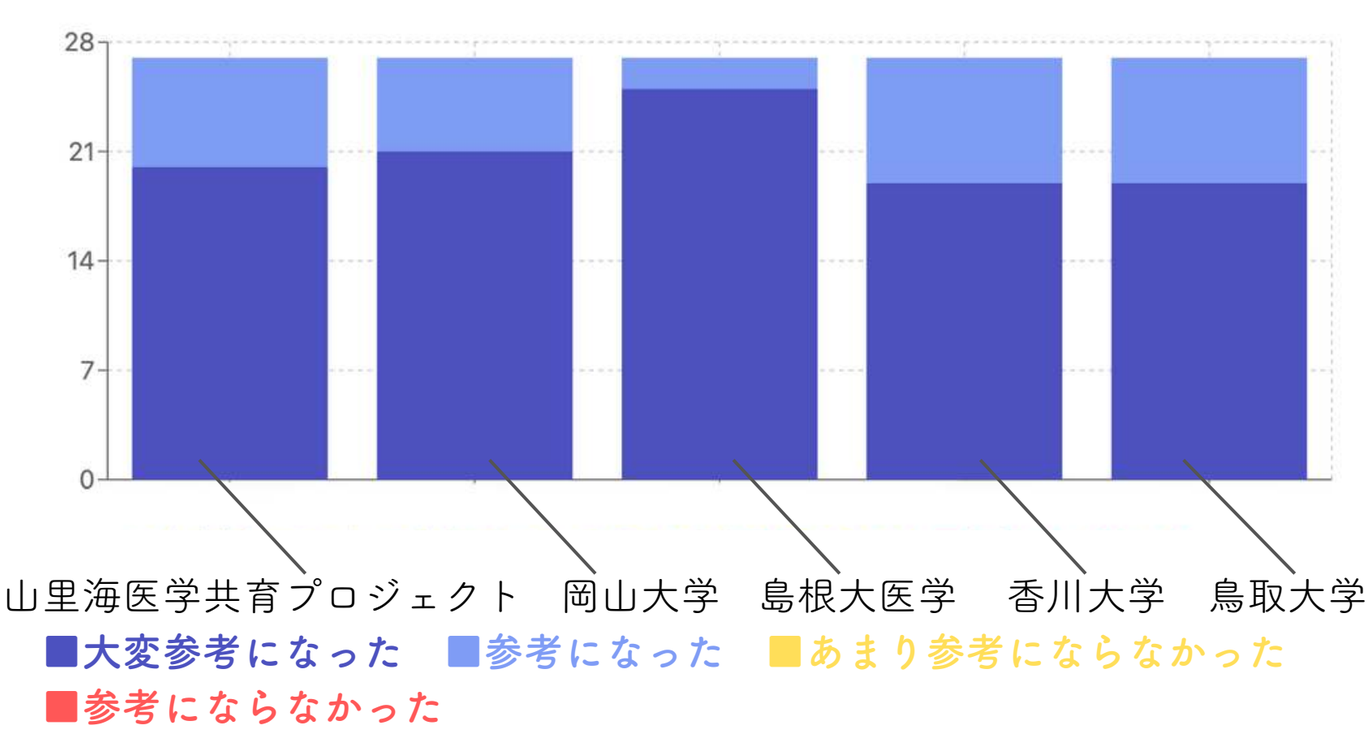
文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」（通称、山里海医学共育プロジェクト）は、2024年８月７日に岡山大学・島根大学・香川大学・鳥取大学の４大学で医学部医学科による高校生向けの地域枠・地域医療合同説明会を開催しました。
YouTube Live 配信を行い、昨年に引き続き、多数の方にご参加いただきました。質問も活発にいただき、「地域医療でしか得られないことを教えてほしい」、「地域枠で進学した学生が、どのような大学生活を送っているのか大変興味がある」等といった地域枠・地域医療に強い関心を持った参加者の声もみられました。

アーカイブ動画

https://youtu.be/BWHeRBCbExA

	視聴者数 (リアルタイム + オンデマンド)
2023年	640 回
2024年	465 回



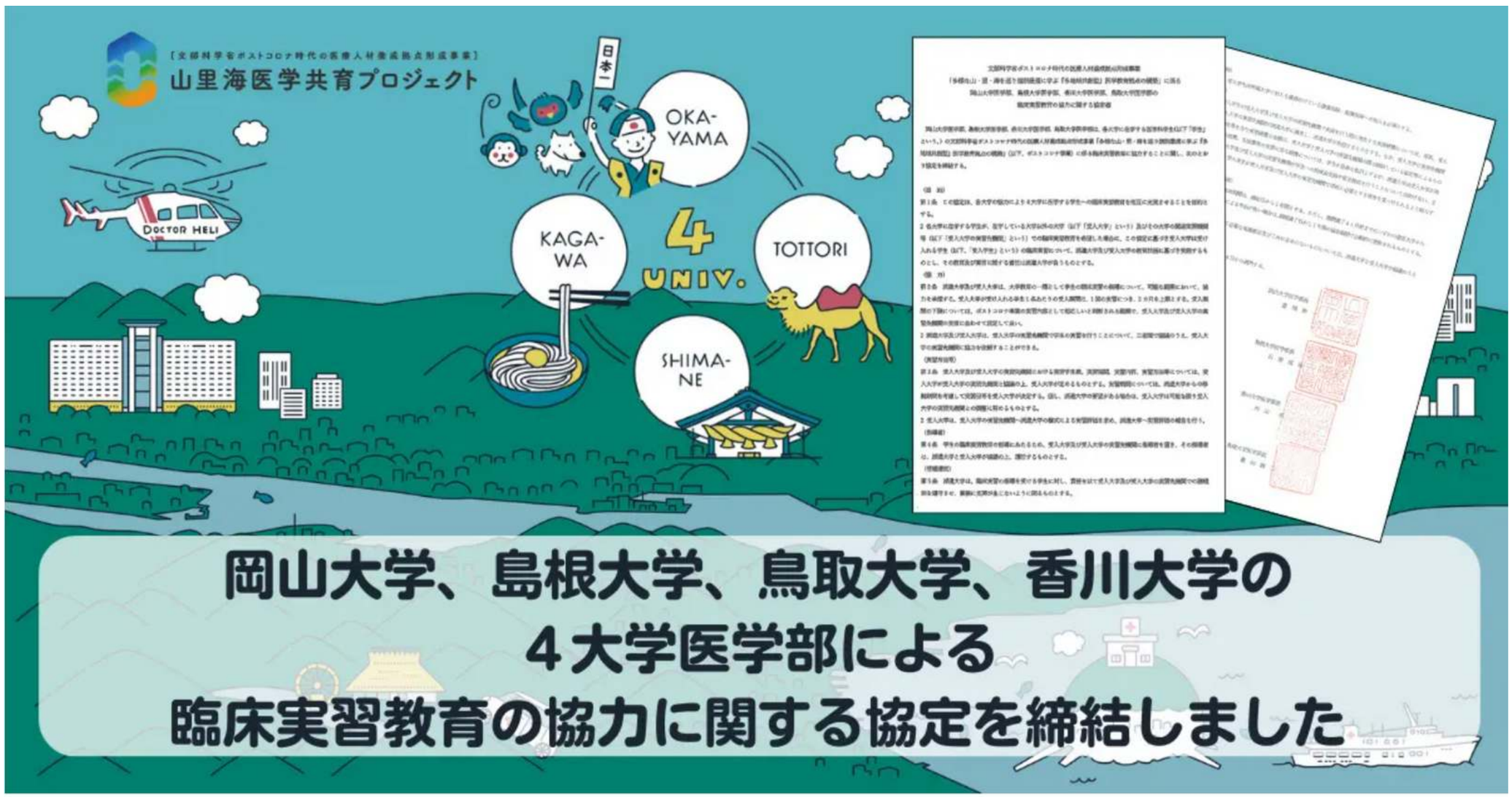


４大学医学部による臨床実習教育の協力に関する協定を締結

山里海医学共育プロジェクト（文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」）では、岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学の4大学は、9月4日、地域医療の課題解決に貢献できる医師を育成するため、臨床実習教育の協力に関する協定を締結しました。4大学がそれぞれの強みを活かし連携することで、多様な地域医療ニーズに対応できる医師の育成を目指します。

近年、医師不足は深刻化の一途を辿っており、特に地域医療においてはその影響が顕著に現れています。また、コロナ禍は医療現場に大きな負担をかけ、新たな課題を突きつけました。このような状況下、地域医療を支える医師の育成は、これまで以上に重要な課題となっています。

本協定により、学生は自身の在籍大学以外の大学とその関連病院で実習を行う機会を得ることができます。実習を通して、都市部の病院から離島医療まで、多様な医療現場を経験することで、それぞれの地域特性に応じた医療を学ぶことができます。これは、学生一人ひとりのニーズに合わせて、山間部、里山、そして海辺の離島といった多様な地域での医療を経験し、地域医療の現状と課題を深く理解することにつながります。ひいては、地域ごとの医師不足や医療格差の解消にも貢献することが期待されます。4大学は、この協定を通して、地域医療の未来を担う優秀な医師を育成し、地域社会への貢献を目指します。



山里海医学共育プロジェクト
大学ごとの事業報告

岡山大学

・地域医療 Early Exposure プログラム

山里海医学共育プロジェクトの地域医療 Early Exposure プログラムに位置づけられた、地域医療実習の報告シンポジウムが岡山大学MUSCAT CUBEで令和6年11月5日に開催されました。岡山大学医学部医学科１年生の実習参加者と、地域医療人材育成講座との共同開催です。
この地域医療Early Exposureプログラムは、各地域で超高齢社会において変化し続ける医療の現状とその課題を正しく認識し、地域において求められる医師像を自らのキャリアに投影しつつ学び成長することを目的として、１年生を対象とした地域医療実習です。実習参加者は、昨年度の2023年度が43名、今年度である2024年度が延べ40名でした。
この地域医療シンポジウムは実習に参加した１年生が中心となって企画・運営を行います。ポスター作成から受付、当日の司会進行まで務め上げました。地域医療シンポジウム当日は実習に参加していない学生も含め、学生現地102名、教員現地８名、現地指導医・スタッフ6名、オンライン12名が出席しました。

その後に開催された地域医療指導医講習会では、医療法人紫苑会福山南病院会長の宮阪英先生を講師にお招きし「地域で医学生を育てる －地域医療実習を通して－」をテーマに講演いただき、教員現地７名、オンライン８名が参加しました。講演後は地域医療実習担当者との意見交換会として、今年の地域医療実習の様子などの意見交換を行いました。

【主催】岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座
岡山県地域医療支援センター 岡山大学支部
文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 山里海医学共育プロジェクト
【共催】岡山大学医師会
【問合せ先】岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座

地域医療体験実習（地域医療フィールドリサーチプログラム）

プログラム概要と各大学での展開 山里海医学共育プロジェクトにおける「地域医療フィールドリサーチプログラム」は、主に医学部低学年（2〜3年次）を対象とし、地域医療の現場体験を通じて医療課題を抽出し、科学的な視点から考察する能力を養うことを目的としています。

香川大学では、医学部3年次の「医科学研究」期間を活用し、地域医療フィールドリサーチの経験を基に学生自身が「地域医療教育カリキュラム作成シミュレーション」を行うなど、課題解決能力や生涯学習能力の育成に繋がる特色ある取り組みを実施しています。

岡山大学における取り組み：「地域医療体験実習」 岡山大学では、本プログラムを「地域医療体験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（0.6単位）として、医学部医学科の3年生全員を対象とした正課必修科目として位置づけ、体系的な地域医療教育を実践しています。今年度は延べ125人が実習に参加しました。

- **目的と到達目標:** 臨床医学を本格的に学ぶ前に、岡山県および近隣県の地域医療施設での5日間の実習を通じて、プライマリ・ケアや地域包括ケアシステムへの理解を深めます。到達目標として、①地域プライマリ・ケアの実際と関係者の役割・責務の理解、②多職種連携による地域包括ケアの理解、③プライマリ・ケアに必要な医学知識の概要理解と学習動機づけ、④問題解決型思考法の活用理解、を掲げています。

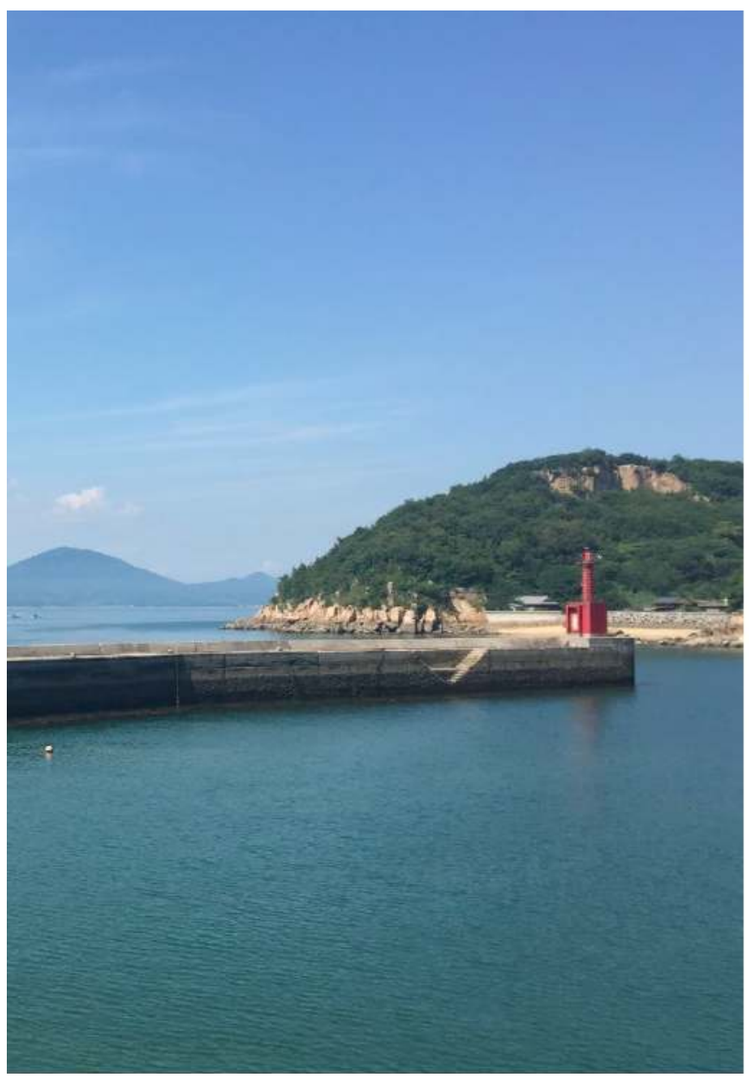
- **実習内容:** 実習は、診療見学に加えて、救急車同乗、介護体験、地域の福祉関係者との面談など、各施設の特色を活かした多様なプログラムで構成されます。実習前には、目標設定、施設連絡、事前課題（スタンダードプリコーション理解度テスト等）、体調管理記録などをMoodleを通じて行っています。

- **実習中の学びと評価:** 日々の学びや気づきはポートフォリオに記録し、担当教員からのフィードバックを受けながら学習を深めます。実習は「実践コミュニティ」への参加と捉え、指導医・スタッフ・患者との良好なコミュニケーション、守秘義務やスタンダードプリコーションの遵守といった医療人としての基本的な姿勢も重視されます。成績評価は、事前講義、報告会出欠、実習への参加態度、ポートフォリオの内容、レポート、実習施設からの評価などを総合的に行います。

- **期待される効果:** 本実習を通じて、学生は地域医療の実際と課題を深く理解し、将来地域医療に貢献するための知識、技能、態度、そして科学的思考力を身につけることが期待されます。早期からの現場体験と多職種との関わりは、臨床医学への学習意欲を高め、医師としての将来像を考える上で貴重な機会となっています。

地域医療実習での
学びのポイント

実習施設案内（Moodle）・
実習先のホームページを見よう！
地域医療体験実習の現場を確認しよう～
例：哲西町診療所
社会医療法人哲西会　哲西町診療所
地域に根ざした医療を～へき地診療所のイメージを覆す～
哲西町診療所
トップページ
院内の案内
お知らせ
後期研修プログラム
学会発表
お問合せ
来る患者を診る待ちの医療から始まり、
いつでも何でも診る（２４時間３６５日何科でも訪ろず診る）医療、
大病院に負けない！という思いで導入した高度機器で癌の早期発見、
更に出前医療（在宅医療等）を通し福祉と連携し、
地域へ出ての健診相談など保健と連携し地域包括ケアを展開
理念・想い



・公衆衛生学マスター養成プログラム

山里海医学共育プロジェクト公衆衛生学マスター養成プログラム事業として、12月16日から18日の3日間、瀬戸内市でフィールドワークを実施しました。本実習は、地域医療を多角的に捉え、理解を深めることを目指し、学生たちが地域社会の一員として疾病予防や健康増進に貢献できる人材へと成長することを目的としています。

1日目（12/16）：病院を中心に医療現場を経験
- 瀬戸内市民病院において、オリエンテーション、病院内実習
- 病院内各部署（ナースステーション、栄養部、薬剤部、リハビリテーション、検査室等）の見学・実習
- 当直実習

2日目（12/17）：病院の外に出て、地域を中心に医療について考える
- 裳掛診療所、看護小規模多機能ホームかおり、特別養護老人ホームせとの夢の見学
- 牛窓フィールドワーク
- 瀬戸内市の医療介護福祉ネットワーク「瀬戸内市在宅医療・福祉・保健連携協議会: ケアネット」定例会に出席

3日目（12/18）：まちづくりの視点で理解を深める
- ushimadoTEPEMOK（旧牛窓診療所をリノベーションした複合施設）で、瀬戸内市職員、地域おこし協力隊を経て瀬戸内市の移住推進に取り組んでいる方々とディスカッション
- 救急隊員との勉強会
- 実習総括、学生からの実習振り返り発表

全体を通して

学生からは「病院内での様々な職種の方の仕事内容を知り、多職種連携の重要性を再認識した。」「診療所と病院の違いを肌で感じ、地域包括ケアの現状を知ることができた。」「過疎問題や空き家問題など、地域が抱える課題を深く理解することができた。」などの声がありました。

今回のフィールドワークでは、病院内だけでなく、地域社会全体を多角的に捉え、医療と地域の関わりについて深く考察する機会となりました。実習を通して、学生には、 何事にも好奇心をもって、 ミクロなレベルだけでなく、地域ひいては社会全体を俯瞰しながら、地域医療に貢献できる医療人となることを期待しています。

・ 地域医療 リーダー養成教育プログラム

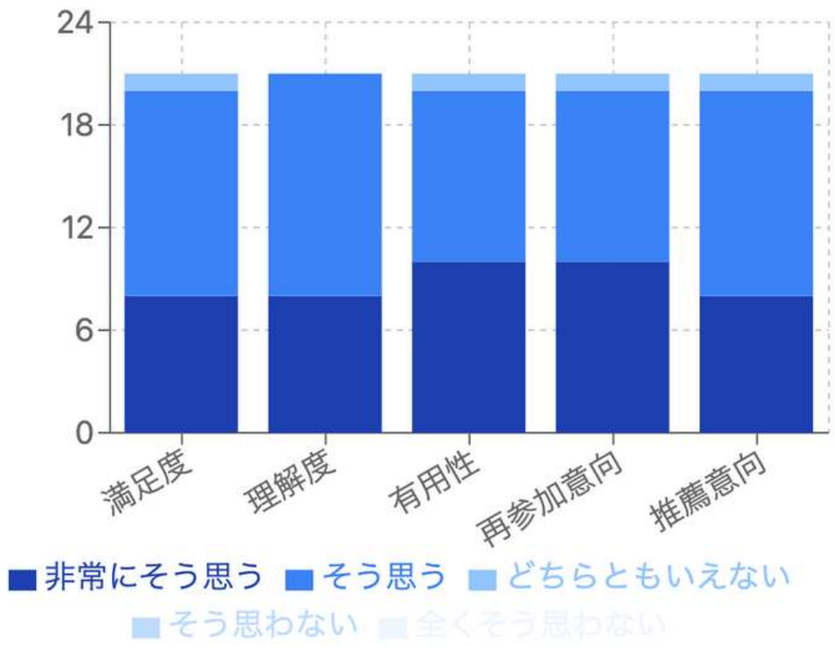
文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築（通称、山里海医学共育プロジェクト）」では、24日に指導者養成講習会 地域医療共育のためのシミュレーション研修 CoCoSimAI（Simulation program for Co-learning Community healthcare Using Generative AI） を開催致しました。この教育コースは、医学教育用シミュレーターを用いながら、参加者間が相互のコミュニケーションを通じて互いに学びあう、「共育」手法にする能力向上に重点をおいたシュミレーション研修です。
岡山大学の当事業専任オフィス（地域医療共育推進オフィス）と地域医療人材育成講座との共同主催、教育推進機構学習・教授支援部門との共催で開催しました。今回で第三回目となるCoCoSimでは、昨年度までのリーダーシップに加えて、生成AIを用いたシュミレーション体験なども行い充実した内容となりました。プレセミナーとして11月23日（土）には、岡山大学教育推進機構学習・教授支援部門の石田衛先生と井上優人先生を講師としてお招きし、「地域医療教育に求められるリーダーシップとは」をテーマにお話し頂きました。2日目となる11月24日（日）には、地域医療共育推進オフィス香田将英特任准教授が講師となり、「生成AI活用の基本から実践まで」「ハンズオン：地域医療教育のシュミレーションAI作成」をテーマに、地域医療共育における生成AI活用事例等について説明頂き、実際に生成AIを活用し論文を検索・翻訳してみたり、シミュレーション教育の体験セッションを行い、参加者同士でディスカッションを行いました。プレセミナーはハイブリッド配信、本セミナーは対面のみの開催とし、プレセミナーに31名、本セミナーに15名の方にご参加頂きました。参加者の職種は、医師、看護師、薬剤師、事務職員など多職種で、様々な視点から学び合い、考える機会となりました。
研修修了時には、研修で得た知識を活かし、今後の自身の更なるレベルアップに期待する声が多く寄せられました。また、今後取り上げて欲しいテーマについても意見が寄せられ、改めてこのコースの重要性を認識することができると共に、来年度も更に洗練した内容になるように作り上げていきます。

昨年度までの内容は
YouTubeポッドキャストとして
公開中

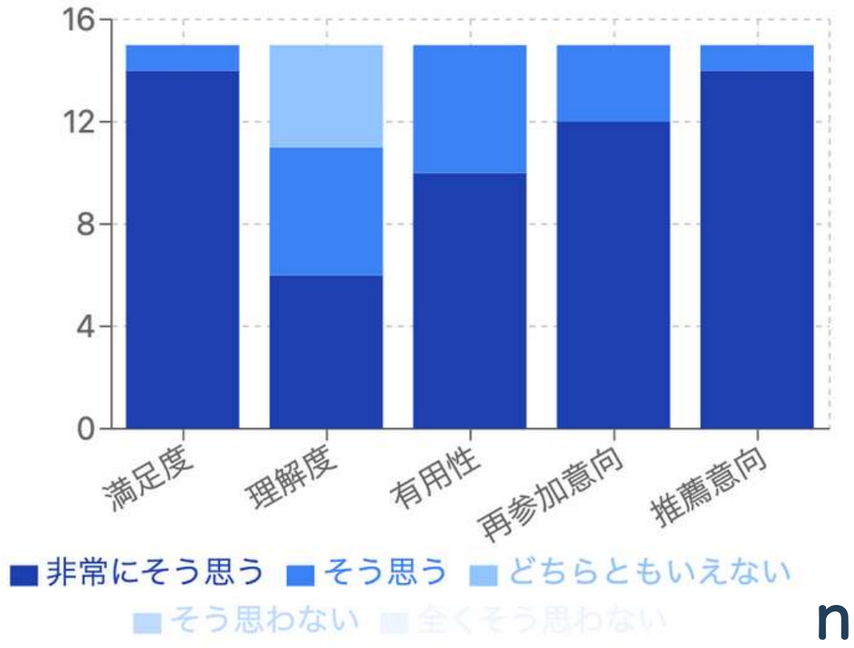
https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/movie/3482.html

CoCoSimAI アンケート結果

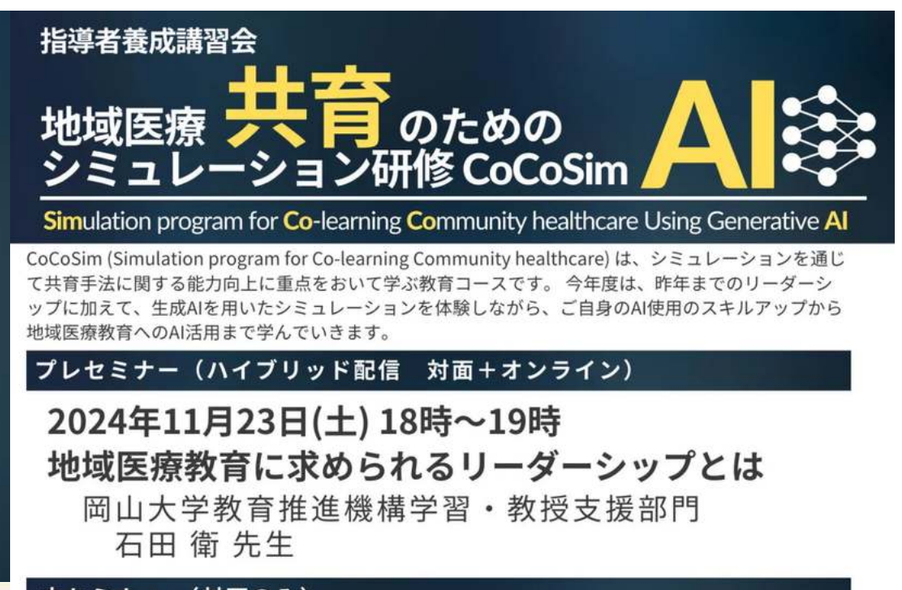
(Simulation program for Co-learning Community healthcare Using Generative AI)



n=21



n=15



・VRやMRを活用した教育の開発

地域医療 全人的医療教育プログラムの教育コンテンツの一つである次世代マルチモーダルケア技術「ユマニチュード」研修プログラムの試験的な取り組みとして、岡山大学医学部医学科および看護学科1年生を対象に、HEARTS (Humanitude AR Training System) を使用した早期体験実習を行っています。

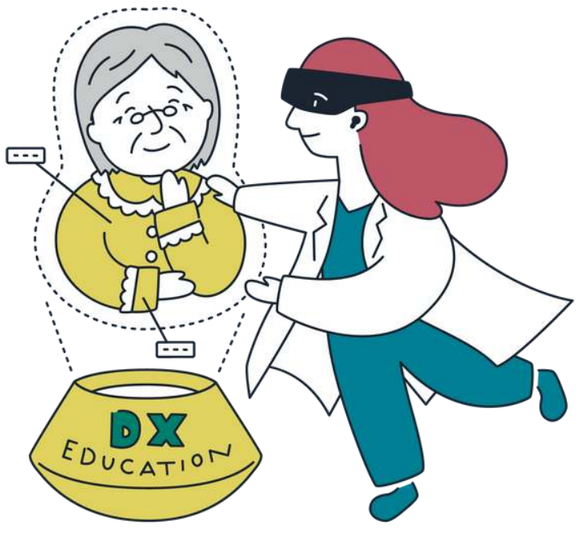
HEARTS は HoloLens 2 を用いて拡張現実 (Augmented Reality: AR) の中で、「見る、触れる、話す」スキルを包括的に学習できる、ユマニチュードAR訓練システムです。

この実習では、認知症患者への理解を深め、適切なコミュニケーション能力を養うことを目的としています。

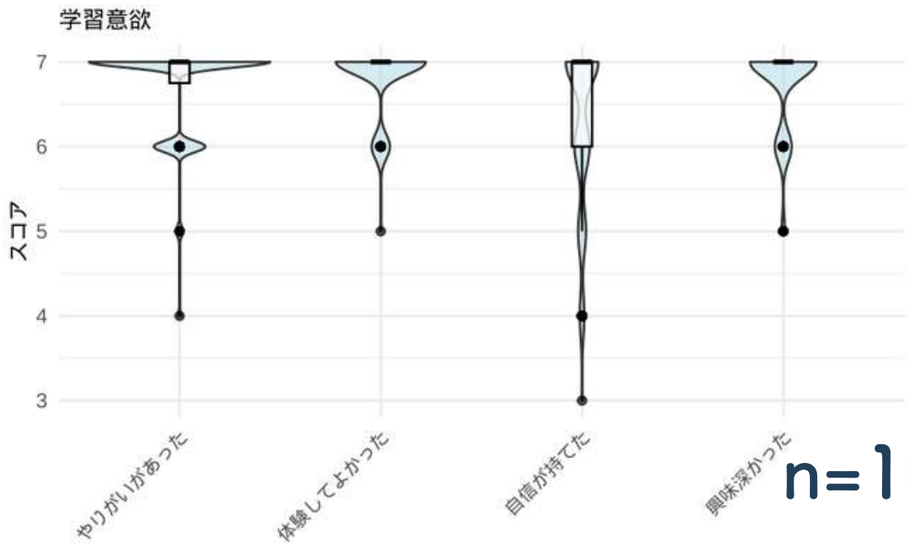
実習の内容として、まずVR（仮想現実）を活用した認知症の疑似体験が行われます。学生はVRを通じて認知症患者の視点を体験し、彼らが日常生活の中でどのような困難を抱えているのかを実感します。これにより、患者の気持ちや症状に対する理解を深めることができます。

さらに、ホロレンズ（拡張現実）を活用したコミュニケーション訓練も行われます。学生がホロレンズを装着すると、目の前に認知症患者のホログラムが表示され、そのホログラムと会話をしながら、適切な距離感や目線の合わせ方、話し方の工夫などを学びます。これらの動作はリアルタイムでフィードバックされる仕組みになっており、従来の口頭指導だけでは得られなかった、より客観的な学習が可能になります。

今後の展開としては、VRコンテンツのさらなる充実を図るため、岡山県内の団体や民間の俳優と協力し、新たな教材の開発が進められています。また、他の医療機関や教育機関とも連携し、より多くの学生がこの実習を通じて学べる環境を整えていく予定です。このような取り組みにより、学生は認知症患者への理解を深め、実践的な対応スキルを早い段階から身につけることができます。

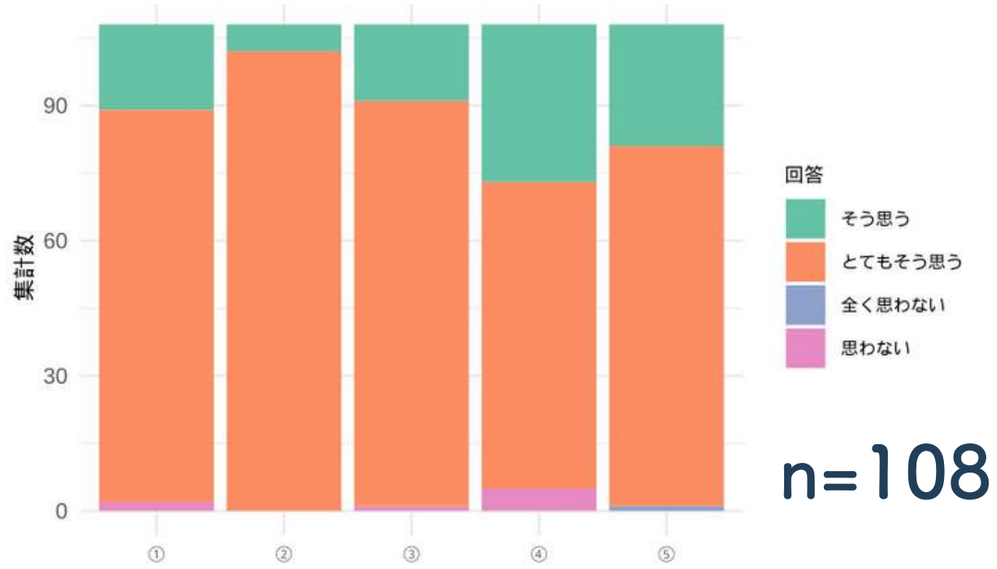


1年生早期体験実習「加齢体験」



n=108

質問	平均点 (7 点満点)	標準誤差
やりがいがあった	6.7	0.1
体験してよかった	6.8	0.0
自信が持てた	6.2	0.1
興味深かった	6.7	0.1



n=108

質問	思わない	そう思う	とてもそう思う	全く思わない
①目的を体感し将来のキャリアイメージを具体化	2	19	87	0
②患者・家族の気持ちに寄り添うことの重要性を理解	0	6	102	0
③コミュニケーションの重要性を理解	1	17	90	0
④多職種連携の重要性を理解	5	35	68	0
⑤最新の医療技術や知識・態度の重要性を理解	0	27	80	1

・生成AIを活用した教育の実施

昨今、ChatGPTをはじめとした生成AIの活用に注目が集まっています。生成AIを正しく活用すれば、どの施設・地域で働いていても、その恩恵を享受できる可能性があります。
本事業では、低学年の地域医療実習を念頭に置いたEarly Exposure プログラムもあることから、実習前のコミュニケーションスキルに不安を抱く学生も少なくはありません。そのため、いつ・どこにいても、医療面接の練習ができるように、AI支援型医療面接練習システムの開発を行っています。医療面接のロールプレイだけでなく、対話のやり取りを評価してフィードバックすることで、効率的・効果的な自己学習が可能です。さらには、中～高学年の地域医療実践における医療面接技術の自己学習に応用を考え、開発を進めています。

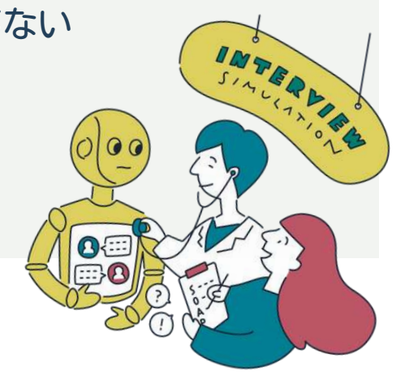
デモシナリオ

あなたは、とあるクリニックの外来診療を担当している医師です。そこに、「ネコタタマ」さんが来院されました。50代男性で、長年の喫煙者です。家族に説得されて**禁煙を目的に外来に初めて来ました。**あなたは医師役としてタマさんと禁煙について話を始めてください。

AIシミュレーションの特徴

何回も失敗しても大丈夫
- 大事だけれどもなかなか出会わない
- 本番で失敗したくない場面に有効

患者役が必要ない
- シナリオを読み込む必要がない
- 馴れ合いが生じない



・ポッドキャストの開設：「Co-learning入門」公開

地域医療リーダー養成教育プログラム では、地域医療に従事するにあたり、医療機関、地域でリーダーシップを発揮し、マネージメントを適切に行い、コミュニケーションをとれる人材を育成するためのプログラムを開発しています。
その一環として、医学英語学習とリーダーシップ教育として、「医学英語ポッドキャスト」を開設し、さらに全8回の「Co-learning」入門を開講しました。

生成AIによる原稿、画像、音声作成支援

- **地域医療の基本知識 13本**
  ACCCA、患者中心の医療の方法
- **英語で医療面接シミュレーション 20本以上**
  国家試験を題材に実践的な会話を学ぶ
- **山里海ジャーナルクラブ 10本**
  最新論文・重要古典について解説
- **教育TIPS（指導医向け）13本**
  5microskills、RIMEモデル

島根大学

多地域共創型医療実習／総合診療学マスター養成プログラム

島根大学では、地域医療教育フィールドとして、離島コース、中山間地コース、診療所コース、地域中核病院コースを手掛けています。参加型実習で実践機会が充実し、熱心な教育布陣であり、総合診療スキルの修得が望めます。また、日本の未来を創る課題解決先進地で、本当の意味でのプライマリ・ケアの概念（ACCCA：Accessibility（近接性）; Comprehensiveness（包括性）; Coordination（協調性); Continuity（継続性); Accountability（責任性））が理解できる機会を提供しています。

とくに、今年度は4大学間がそれぞれの強みを活かし連携して医師を育成するための「協定書」を締結したことにより、各大学の関連実習施設をモデルコースとして設定し、本学学生が多地域共創型医療実習プログラムとして岡山県新見市の哲西町診療所で２週間の実習に参加しました。

夏季・春季地域医療実習

また、高学年以外の医学生も参加できる夏季・春季地域医療実習を提供しています。二次医療圏ごとに圏域の医療資源を見渡す実習として保健所が立案しています。他大学医学部でも出雲からの旅費宿泊費制度がある全国的にも珍しい制度です。圏域の地域医療全体を見渡すことが出来るプログラムとなっており、病院だけでなく、診療所、個人医院、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、義肢工房、保健所などが実習のフィールドに含まれています。また、在宅診療や地域包括ケア関連の会議などへの参加機会もあります。

低学年の参加が主で、地域に出かけるというのは初めてという学生も多かったのですが、病院や診療所では外来診療の見学の他に、訪問診療・看護・リハビリテーションに同行し、地域住民の生活や多職種連携の実際を学ばせて頂きました。2023年度は、島根大学、鳥取大学、筑波大学、長崎大学、自治医科大学、千葉大学の学生が、2024年度は島根大学、鳥取大学、自治医科大学、琉球大学の学生が実習に参加しました。

フレキシブル地域医療実習

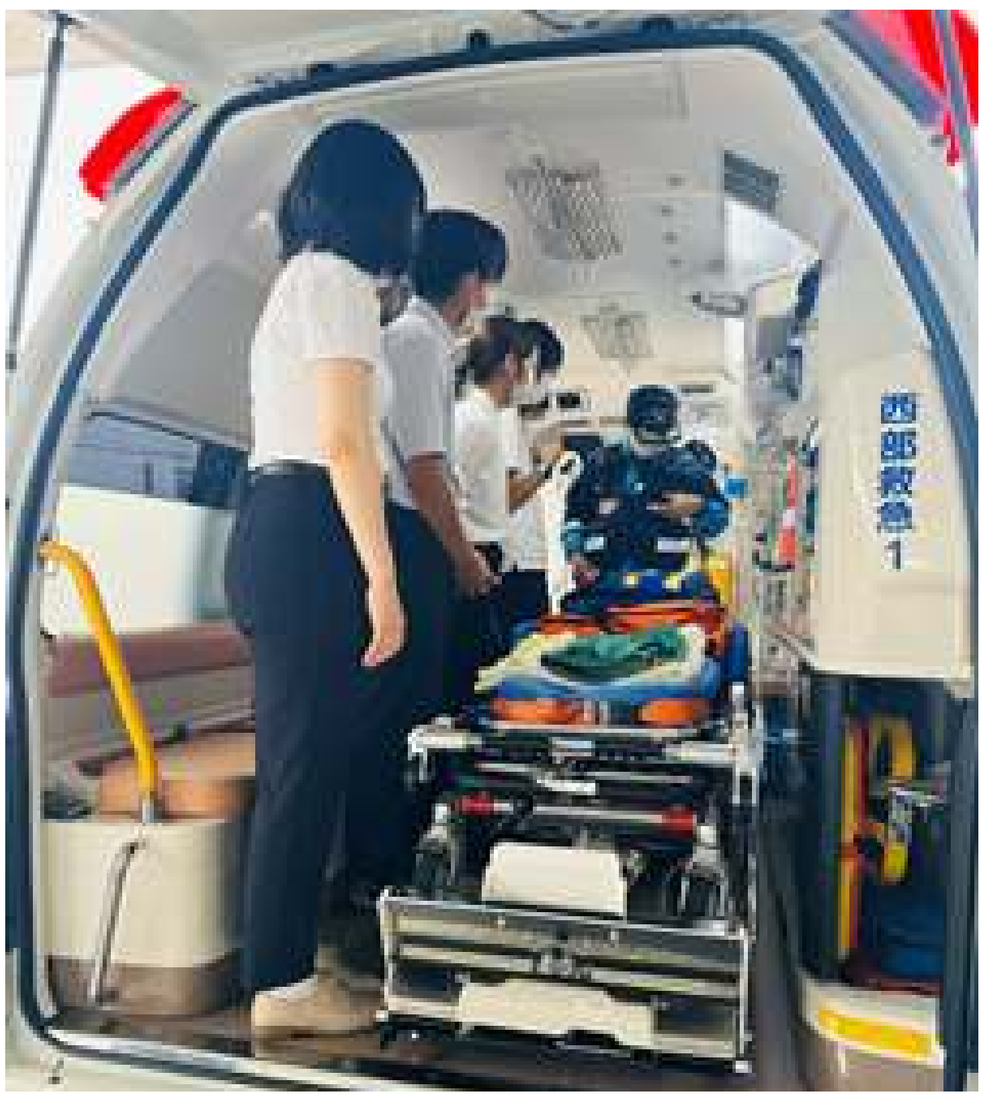
フレキシブル地域医療実習は、自分の「やりたい」をカスタムに企画してもらう実習です。
本事業により、フィールドを県外の地域医療機関にも拡充し、2023年度は岡山県新見市の哲西診療所、岡山県勝田郡の奈義ファミリークリニック、香川県小豆郡小豆島中央病院、鳥取県日野郡日南病院などに、2024年度は上記のほかに鳥取県三朝温泉病院での実習に参加しました。
いつもと違う地域で実習することにより、自分がホームとする地域での医療を俯瞰し、課題や解決策について考える機会になった、各地域により求められる医療が異なることなど、様々な気づきが得られています。
参加した学生は、本フレキシブル実習での報告会発表を機に実習内容をまとめ、学会でのポスター発表を行うなど、実習での実践を振り返ることにより、経験を言語化し社会発信するスキルを習得する機会にもなりました。
地域での総合診療医の役割を理解し、プライマリ・ケアの実践力が身につくような真の参加型プログラムへと更に発展させていきたいと思います。

VR機器を活用した取り組みについて

附属病院の外科医局では、医学生や医局員対象のハンズオンセミナーを開催しました。また、高度外傷センターでは、クリニカルクラークシップの学生がドクターカーに搭載された360度カメラとVRゴーグルを使用してリアルタイムで疑似体験をしました。さらに教育学部では「しまだいジュニアドクター育成塾」でVRワークショップを実施しました。これらのVR機器を活用した取り組みにより、将来地域医療に貢献できる医療従事者の育成を行っています。

人員の強化

令和6年2月より、看護師の大和田芽衣子助教が事業専任教員として着任し、多職種連携教育、シミュレーション教育を含めた本事業企画を行っています。


西部救急1

香川大学

地域医療フィールドリサーチプログラム

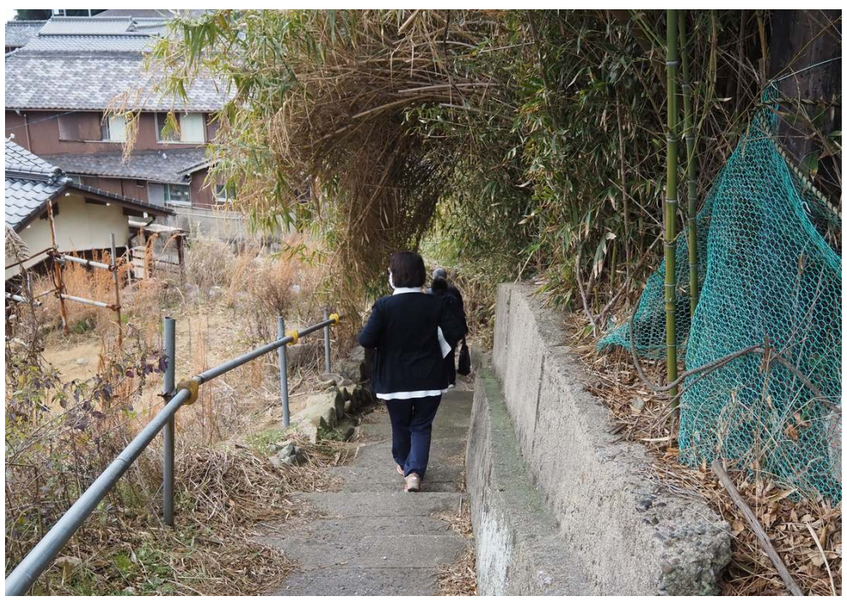
現代社会の変化に伴い、地域医療も継続的に変化しています。将来の地域医療を担う医学生には、変化に対応できる医師としての能力を身につける必要があります。そのためには、医学生自身が「学ぶべきこと」を認識し、「学び方」を磨く生涯学習の力が重要です。私たちは、シミュレーション教育を活用することで、将来の地域医療に対応できる能力や生涯学習の力を育むことができると考えました。

2024年1月から3月にかけて、香川大学医学部3年次の5週間の「医科学研究」期間に、3名の医学生が医学教育学教室に配属され、地域医療フィールドリサーチの経験を基に「地域医療教育カリキュラム作成シミュレーション」を行いました。

学習の流れは次の3段階で実施しました。

STEP1：オリエンテーションと地域医療に関する事前学習（1週間）

オリエンテーションでは、学習目標とカリキュラム作成シミュレーションの意義を説明しました。未来の地域医療をイメージしながら「何を身につけるべきか」を考えることが、生涯学習の力を養うことにつながると伝えました。また、研究倫理について再確認し、臨床現場での適切な行動について指導しました。



STEP2：地域医療フィールドリサーチの実践（2週間）

さぬき市民病院、坂出市立病院、三豊総合病院、綾上診療所の4病院を訪問し、島嶼部や山間部を含む地域の訪問診療や巡回診療に同行しました。現場での指導は各病院の医師や看護師が担当し、医学生は見学を基本としながらも、患者さんや家族へのインタビューなどを行いました。

STEP3：「地域医療教育カリキュラム」作成シミュレーション（2週間）

フィールドリサーチでの経験を振り返り、教員からのフィードバックを受けた上で、医学生たちはそれぞれのテーマに対する学習目標と方法を考案しました。

テーマは各医学生の将来の医師としての目標を反映させ、「地域医療における医療面接」「これからの離島医療教育」「地域における診療参加型臨床実習」に決定しました。

地域医療フィールドリサーチプログラムの意義

3年次医学生に対して地域医療フィールドリサーチを含めた「地域医療教育カリキュラム作成シミュレーション」を行った結果、医学生自身がカリキュラム作成を行うことで、自己学習能力を高め、学習効果が増す可能性が示されました。

すべての医療者は地域で生活する患者さんや市民の治療やケアを行っており、地域医療に関わっています。地域医療は「保健」「医療」「福祉」を総合した地域包括ケアシステムの中で行われるものだからです。

多くの医学部では低学年から地域医療に関する講義や早期体験実習が行われていますが、これらの実習は大学病院などの地域中核病院で行われることが多く、巡回診療や訪問診療などを経験できることは稀です。そのため、地域医療の実態を十分に理解できないこともあります。地域医療に関わる医療者のやりがいを実感し、「専門性と総合性のバランス」や「将来の地域医療への関わり方」について継続的に考える機会を増やすことが大切です。

私たちが今回実施した地域医療カリキュラム作成シミュレーションは、このような体系的な地域医療教育に効果的だと考えています。医学生たちは地域医療フィールドリサーチで多様な経験をし、それを基に学ぶべきことを整理してカリキュラムに反映させる作業を通じて、変化に対応できる力を身につけることを目指しました。

医学生の感想からも、カリキュラム作成を意識しながらフィールドリサーチを行うことで、「何を学ぶべきか」を自ら考えるきっかけになったことがわかりました。また、医学生それぞれの関心を大切にしてテーマを決めることで、学習への積極性が高まると感じました。

2025年は地域医療における「痛み（急性期・慢性期・緩和医療）」をテーマに進めています。現在は各病院の受け入れ時期の調整が難しく他大学の学生受け入れはできていませんが、夏季・春季などでの受け入れ体制構築を検討しています。

地域枠学生を対象としたキャリアデザインシミュレーション

地域医療を支えるため、全国の医学部では地域枠制度が設けられています。香川大学医学部の地域枠制度では、卒業後9年間を香川県内の医育機関で過ごすことになります。地域枠学生は専門研修プログラムや県内でのローテーションなどの調整が必要なため、キャリアプランを描くことが難しい場合があります。

私たちは、医学生を対象としたキャリアデザインセミナーを実施し、様々な不安や課題を把握して支援を試みてきました。しかし、一方的なセミナー形式では学生が自分のキャリアを十分に考える機会にはなりにくいと感じました。特に地域枠学生は、9年間の義務期間中にどのようにスキルアップするかをイメージすることが難しいという課題がありました。　この課題を解決するため、地域枠学生が自らキャリアデザインをシミュレーションし、教員から効果的なフィードバックを受ける取り組みを実施しました。

対象は2023年度医学部医学科地域枠学生4・5年次23名で、臨床実習中の学生のため自由参加としました。セミナー当日は1時間の集合型ディスカッションを行い、各学生が発表した後、地域枠担当教員からフィードバックを行いました。香川県庁医務国保課の地域枠担当職員も参加し、適宜コメントしました。参加した学生からは、キャリアデザインの重要性を理解したという意見が多く寄せられました。多くの学生が専門医制度や医学博士取得のプロセスについて十分に理解していなかったことがわかりました。また、9年間の義務期間中のキャリア形成について、専門医取得や博士課程進学、産休・育休などを含めたライフイベントとの両立に関する不安が見られました。

若手医師は臨床研修だけでなく、研究活動や結婚・出産・育児などのライフイベントとも向き合う必要があります。地域枠学生は義務年限の制約もあるため、キャリアデザインはより複雑になります。そのため、卒前から継続的にキャリアを考え、変化に対応できる力を身につけることは非常に重要です。

今回のシミュレーションでは、予期せぬイベントへの対応も考えてもらうことで、「変化に対応できる力」の育成を意識しました。多くの参加者がその重要性を実感したと回答しています。

学生から寄せられた様々な不安や希望は、医学生や若手医師のキャリア形成を支援する大学や病院にとって貴重な情報となります。これらの「気づき」を医育機関と共有することで、教育・研修体制の改善につながると考えています。

医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「生涯にわたって自律的に学び続ける」能力が医師に求められる基本的な資質として挙げられています。これは変化し続ける医療界の中で自己研鑽を続け、自分の在り方を考えていくスキルの重要性を示しています。現在の医学教育には生涯教育やキャリアデザインのプログラムが少なく、体系的なカリキュラム作成が期待されています。

今後は地域枠学生に限らず、将来の地域医療を担うすべての医学生を対象としたキャリアデザイン教育の拡充を検討しています。2025年1月には第90回医学教育とワークショップで「キャリアデザインシミュレーション･ビヨンド！～系統的キャリア教育を考えてみませんか～」を開催し、体系的なキャリア教育の構築に取り組んでいます。

鳥取大学

救急医学・災害医療学／感染症学マスター養成プログラム

とりだい夏プログラムの実施

鳥取大学では山里海医学共育プロジェクトの一環として、昨年に引き続き「2024とりだい夏プログラム」を実施し、岡山大学、香川大学、島根大学、鳥取大学の医学科1年次から5年次まで計12名の学生が参加しました。

〈参加者内訳〉

岡山大学 2名
香川大学 1名
島根大学 1名
鳥取大学 8名

プロジェクトの正式実施に先駆け、鳥取大学が提供する「救急医学・災害医療学マスター養成プログラム」と「感染症学マスター養成プログラム」の内容を夏休み期間中に受講者の希望に合わせたスケジュールで実施しました。

救急医学・災害医療学コースではプレホスピタルケアから高度救命救急センターでの多発外傷や熱傷等の高度な救命救急医療を含む幅広い内容の実践的な診療参加型臨床実習が行われ、参加者からは「臨床現場の最前線の実態や講義で学んだABCDEアプローチやFASTなどが実際は（想像していたよりも）迅速に行われている場面を見て圧倒された」「診療に積極的に参加する機会があり、サークルや授業で学んだ手技を現場で実践できて嬉しかった」「救急の現場を見て自分もその現場に立ちたいという気持ちがより強くなった」「救急は全身を診る科ということを改めて実感するとともに、一人一人の患者さんを思っていたよりもじっくりと診察、治療していくのだと感じた」「救急隊や医師、その他の職種が互いに協力し合わないといけないことを学んだ」等の感想が聞かれました。

感染症学コースでは抗菌薬の適正使用に関するレクチャーや微生物検査、実際の患者さんに対する医療面接、身体診察、カルテ記載等を含めた診療参加型臨床実習等が行われ、「薬剤耐性の仕組み等について詳細に学ぶことができた」「感染症内科での働き方、考え方を間近で見て感染症への興味が深まった」「先生方から進路等について多くのアドバイスを頂き、今後のキャリアを決める際の参考になった」等の感想が聞かれました。

この2年間のプログラムであきらかになった問題点等について十分に検討し、今後の正式実施に向け、より良いプログラムを構築していきたいと考えております。

多地域共創型医療実習プログラム

山里海医学共育プロジェクトの「多地域共創型医療実習プログラム」の中で、鳥取大学の関連医療機関では「中山間地コース」として日南町国民健康保険日南病院、「地域中核病院コース」として日野病院組合日野病院、「診療所コース」として大山町国民健康保険大山診療所での実習が予定されており、学生受け入れのための準備を進めております。いずれの医療機関も鳥取大学医学部地域医療学講座との緊密な連携に基づく地域医療教育フィールドとしての実績があり、地域に根ざした高い実践能力と地域医療マインドを培うことのできる教育プログラムが整備されています。多彩なバックグラウンドをもつ学生が多彩な地域での実践的学びにより、地域医療のリーダーとしての役割を果たせる高度な知識、技能、マインドを習得できるよう、教育システムの整備を進めていきたいと考えております。

6 教育プログラム・コースの状況

教育プログラム・コースの名称（正規・インテンシブの別）	対象者	令和5年度 受入実績	令和6年度 受入実績
地域医療 Early Exposure プログラム	1年次	43	40
地域医療フィールドリサーチプログラム	3年次	117	128
多地域共創型医療実習プログラム	5年次	15	130
	6年次	83	105
		他学年4	他学年34
公衆衛生学マスター養成プログラム	5年次	0	0
	6年次	4	1
		他学年11	他学年1
救急医学・災害医療学マスター養成プログラム	5年次	1	38
	6年次	6	8
		他学年16	他学年8
総合診療学マスター養成プログラム	5年次	1	106
	6年次	30	77
感染症学マスター養成プログラム	5年次	0	38
	6年次	5	10
		他学年9	他学年3
地域医療 リーダー養成教育プログラム	2年次	0	0
	5年次	0	0
	卒業生	13	46
地域医療 全人的医療教育プログラム	2年次	0	0
	5年次	0	0
	卒業生	0	0
		他学年4、他学科87	他学年108

受入実績人数は、正課・インテンシブの双方を含めて計上

山里海医学共育プロジェクト
外部評価委員一覧および評価

7 外部評価委員一覧および評価

令和7年2月14日（金）に外部評価委員会を開催いたしました。

外部評価委員一覧

聖マリアンナ医科大学救急医学講座　教授	藤谷　茂樹
国際医療福祉大学大学院医学部医学教育統括センター・ 感染症学　センター長・教授	矢野　晴美
千葉大学医学部医学教育研究室　特任教授	清水　郁夫
社会医療法人清風会岡山家庭医療センター　所長	松下　明
自治医科大学・ 医学教育センター医療人キャリア教育開発部門　特命教授	菅野　武

令和6年度の評価

●昨年度同様活発に活動されている様子がよく見て取れた。先ほど体験させていただいたAIチャットボットを使った禁煙外来のやり取りも、大変実践的で学生たちの学習に非常に役立っているものと考えられる。素晴らしい取り組みであり、このまま継続していただきたい。

●とても素晴らしい取り組みである。予算が削られてきている中で、この素晴らしい事業をどのように継続していくかという点で、できるだけ多くの方々がこの取り組みに早期に暴露されることが非常に重要である。Early Exposureなどの取り組みも行われているが、留学交換研修というような取り組みで参加者が1名とか2名という数の少なさが気になる。単位の互換性があるのであれば、もう少し多くの参加が可能ではないかと考える。

●地域枠の方々がそれぞれの大学にいると思うが、その方々は地域に貢献するという志で入学してきているため、こういった会への参加をある程度推進しているのかどうか、その点を確認したい。
また、予算が限られている中で、地域への交換留学は厳しい面があると思われる。
そこで、実際に地域に行く人数を限定しつつ、ルポタージュのような形式で遠隔で動画を撮影し、リアルタイムで映し出すといった方法も考えられる。このようなルポタージュを活用した合同学生講義であれば、予算を抑えながら多くの人たちに地域の実情を伝えることが可能ではないか。私の自治大での経験では、夏の地域実習に1年生から3年生が参加する必要があり、そこで地元の方々から様々な教えを受け、2年3年と継続することで地域医療への理解が深まっていった。このような経験をオンラインで共有し、実際に地域で活動している卒業生との交流機会を設けることで、より効果的な情報共有が可能になるのではないか。

●様々なプログラムと教育コンテンツが立ち上がり、論文化まで至ったものもあることは、大変素晴らしい1年間であったことを示している。

●非常に良い取り組みが幅広く実施できていると評価する。特に、実際の学生交流が開始され、大学の実習として正式に位置づけられる体制が整ったことは重要な進展であり、今後の参加者数の増加に期待したい。

●定点観測により着実な進展が確認できている。予算削減という課題に対し、オンラインツールの活用や学生体験の共有など、創意工夫による対応が必要である。予算削減に屈することなく、事業の発展を期待する。

●昨年度に引き続き、大変精力的な取り組みに感銘を受けた。4大学連携での学生実習基盤の締結と運用開始は素晴らしい成果である。大学間交流の活発化も顕著で、香田先生の他大学での講義やAI学習の取り組み共有は重要な進展である。学生評価のフィードバック活用も継続を望む。申請書課題に対応した進捗説明は分かりやすく、事業発展が明確である。 今後の意見として、CoCosim AIのアンケート結果では満足度は高いが理解度にばらつきが見られる。これは内容理解に差がある可能性を示唆しており、オンデマンド復習機会やレポート評価など、学習者レベルに合わせたプログラム拡充へのアンケート結果活用を期待する。

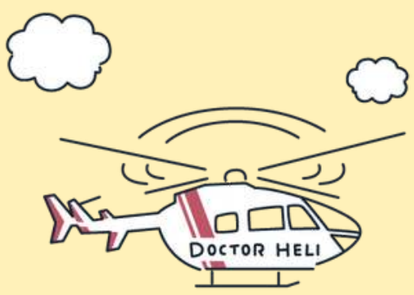
「山里海医学共育プロジェクト」は、4つの大学が連携し、質の高い地域医療人材の育成を目指しています。本ウェブサイトでは、プロジェクトの概要や成果を広く発信しています。実習やイベントの様子についても、写真やイラストを用いて分かりやすくご紹介しております。

各大学の強みを活かした特色ある取り組みを通じて、将来の医療現場で求められる実践力の養成に努めています。地域医療に関心を持つ医学生、教職員の皆様、さらには一般住民や将来医療従事者を目指す高校生の皆さんにも、本プロジェクトの内容をお伝えできればと考えております。

本ウェブサイトが、プロジェクトへのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

ウェブサイトURL

https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/

［文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業］

山里海医学共育プロジェクト